# 取扱説明書

## 音楽を楽しむためのマナー

電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮したうえでお楽しみください。

## 著作権について

本製品をご利用される前に、以下の注意事項をご確認ください。
また、本製品は以下の注意事項を守ってご利用下さい。

●個人で楽しむ以外は、音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
●個人で楽しむ目的であっても、作成した音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
●個人で楽しむ目的で録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。

# はじめに / 製品の特長

この度は「クロスセブン XS701」をお買い求めいただき誠にありがとうございます。本製品は手軽に音楽を楽しめるデジタルオーディオプレーヤーです。

**WMA（DRM 対応）、MP3 再生（P.26）**

WMA 形式や MP3 形式のオーディオファイルを再生可能。WMA 形式は Windows Media DRM に対応しているため、インターネットからダウンロードした音楽も手軽に楽しめます。

**インナーイヤホンを使わずに音楽を楽しめる小型スピーカー内蔵（P.29）**

本体に小型スピーカーを内蔵。イヤホンを使わずに音楽を楽しむことができます。グループで音楽を聴く際などに便利です。

**とっさのボイスメモに便利なボイスレコーダー機能搭載（P.41）**

本体にマイクを内蔵。簡単操作でボイス録音ができます。ミーティングや語学レッスンなどの録音はもちろん、とっさの時にボイスメモが残せて便利です。

**パソコンを使わずに手軽にオーディオ録音（シンクロ機能搭載）（P.43）**

付属のダイレクトレコーディングケーブルを使えば、パソコンを使わずに、CD や MD プレーヤーなどのオーディオ機器から直接 MP3 形式で録音が可能。また曲の切れ目を感知して、自動的に録音を開始 / 停止してファイルを分割してくれるシンクロ機能も搭載しました（P.71）。

**好みの音質で音楽を楽しめるプリセットイコライザ内蔵（P.61）**

ノーマル / ロック / ジャズ / クラシック / ポップス / ユーザーなど多彩な音楽ジャンルに最適化された 6 種類のプリセットイコライザを搭載。ボタンひとつで好みのサウンドで音楽を楽しめます。

**繰り返し再生ができる各種リピート再生機能搭載（P.63）**

繰り返し再生できる各種リピート再生機能や、英会話のレッスンなどのオーディオファイルの同一箇所を繰り返し聴きたいときに役立つ区間リピート機能（P.30）など、用途に応じて多彩な再生方法をご利用いただけます。

**海外でも使える FM チューナー 搭載（P.47）**

FM ラジオや 1 ～ 3ch の TV 音声を自在に楽しめます。日本国内だけでなく、欧州 / 米国の周波数にも対応しており、周波数が 76.0MHz ～ 108.0MHz の範囲内であれば海外でも利用できます。

**パソコンとの接続を簡単に実現。USB マスストレージクラス対応（P.87）**

USBマスストレージクラスに対応しているので、パソコンとの接続は簡単です。特別なドライバソフトのインストールも不要です。

**便利なフォルダー再生に対応（P.33）**

アルバム別やアーティスト、ジャンル等、収録曲をフォルダー別に整理することができます。もちろん音楽データ以外のデータ管理も可能です。

**SD カードスロット搭載でメモリ容量の増設が可能（P.80）**

SD カード（別売り）は、最大 512MB まで増設可能。SD カードを利用すれば、より多くの曲の保存が行えるほか、デジタルカメラの画像データの保存など、大容量モバイルメモリとしても活用可能。また、パソコン接続時には SD カードリーダーとして使用することもできます。

**わかりやすい日本語表示機能（P.77）**

ID3 タグ対応（P.96）。メニューも日本語表示なので操作が簡単です。

# 必ずお読みください

### 著作権についてのご注意

本製品をご利用される前に、以下の注意事項をご確認ください。

**注意**

- 個人で楽しむ以外は、音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
- 個人で楽しむ目的であっても、作成した音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
- 個人で楽しむ目的で録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。

### 商標について

X-Seven（クロスセブン）の名称は、シーグランド株式会社の商標です。
Microsoft、Windows、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他記載の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

### パソコンでの操作について

本取扱説明書では、パソコンの操作方法についても一部紹介をしておりますが、パソコン本体、OS、その他アプリケーションの操作については、ご利用されている製品の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

- お客様または第三者が、本製品またはパソコンや各アプリケーションの誤使用、使用中に生じた故障、データの消失、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 本取扱説明書の一部または全部を弊社の許可なく複製することはできません。
- 本取扱説明書に記載されている内容を、製品の機能の改善・改良を目的とし、将来予告なしに変更する可能性があります。
- 本取扱説明書は万全の注意を払って制作していますが、取扱説明書を参考にした操作において損害が生じても責任は負いません。
- 本取扱説明書は開発中の製品を元に制作されており、実際の製品とは一部外観が異なるものがあります。
- 画面ショットは、Windows XPおよびWindows Media Playerバージョン10を使用しています。お使いのパソコン環境によっては細部が異なることがあります。あらかじめご了承ください。

# 安全上のご注意

製品を安全にお使いいただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。お読みになった後は、必要なときにご覧になれるように、本取扱説明書を大切に保管してください。

### 警告表示の意味

本取扱説明書では、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、様々な絵表示をしております。その表示と意味は、次のようになっております。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容を示しています。

### 絵表示の例

この記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容が記載されていることを示します。

この記号は、行為を禁止する内容が記載されていることを示します。

この記号は、行為を強制したり指示する内容が記載されていることを示します。

**下記の注意事項を守らないと大けがの原因となります。**

**運転中は使用しない**

運転をしながらイヤホンを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
また歩行中に使用する際も、事故を防ぐために、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

**煙が出たり、変なにおいがするときは、ただちに使用を中止する**

万一、異常が発生した場合はすぐに使用を中止し、お買い上げ店または弊社サポートセンターにご相談ください。そのまま使用すると感電したり火災の原因となります。

**正しく接続する**

本製品をパソコンに取り付ける場合は、必ず本取扱説明書で接続方法を確認し、正しく接続してください。誤った接続をすると、パソコンや本製品から発煙したり火災の原因となります。

**分解・改造しない**

感電、火災、火傷などの事故の原因となります。修理はお買い上げ店または弊社サポートセンターにご依頼ください。改造した場合、保証期間であっても有料修理となります。

**濡らさない**

本製品を調理台や加湿器のそば、風呂場などの水などで濡れやすい場所または水のかかりやすい場所に置いたりご使用にならないでください。火災や発熱、感電、破損、故障の原因となります。
万一、水などで濡れた場合は、すぐに電源をオフにし、お買い上げ店または弊社サポートセンターにご相談ください。

**振り回さない**

ストラップやイヤホンコード、オーディオ録音ケーブルなどを持って本製品を振り回さないでください。周囲の人がけがをする恐れがあります。

**端子部に金属類を差し込まない**

ジャックなどに金属類を差し込まないでください。回路のショートや故障の原因となります。

**下記の注意事項を守らないと大けがの原因となります。**

**USB コードを傷つけない**

USB コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。USB コードを加工したり、重い物を乗せたり、引っ張ったりしないでください。また、熱器具に近づけたり、過熱しないでください。

**指定以外の電池を使用しない**

必ず単 4 型アルカリ乾電池をお使いください。異なる電池で使用すると、火災や感電の原因となります。

**パソコンと接続中に雷が鳴り出したら、使用を中止しパソコンから取り外す**

落雷により、火災や感電、故障の原因となります。

**乾電池をショートさせない**

乾電池の＋端子と－端子を金属類で接続させないでください。乾電池の破裂や液漏れ、過熱などにより、火災や感電、けが、周囲の汚損の原因となります。また、乾電池を持ち運ぶ際は、絶縁体で保護して持ち運びしてください。

**⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。**

**大音量で長時間連続で聴きすぎない**

大きな音量で長時間続けて聴くと耳を刺激しすぎてしまい、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にイヤホンで聴く場合には注意し、周囲の音が聴こえるくらいの音量でお聴きください。

**はじめからボリュームを上げすぎない**

再生時にボリュームが上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。ボリュームは再生しながら徐々に上げていきましょう。

**コード類は正しく配置する**

本体と他の機器をケーブルを使って接続をする際に、コードを正しく配置しないと足などにひっかけて機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して、接続・配置してください。

**ぐらついた台や傾いた場所に置かない**

落下し、故障の原因となります。

**幼児の手の届くところに置かない**

けがなどの事故の原因となることがあります。

**濡れた手で本製品を触らない**

感電の原因となる場合があります。

**長期間使わないときは乾電池を取り外す**

長期間使用しないときは安全のため乾電池を取り外してください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

**付属の CD-ROM をオーディオ用 CD プレーヤーで絶対に再生しない**

付属の CD-ROM は「データ CD-ROM」です。一般のオーディオ用 CD プレーヤーでは絶対に再生しないでください。大音量によって、耳に障害を被ったり、機器などを破損する恐れがあります。

# 乾電池についての安全上のご注意

**液漏、発熱、発火、破裂、誤飲などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。**

本製品には必ず単４型アルカリ乾電池をお使いください。

## ⚠危険

- 単４型アルカリ乾電池以外を使用しない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。コインやヘアピン、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそば、ストーブのそば、炎天下などの高温の場所で充電、使用、放置しない。
- 分解・改造しない。
- 強い衝撃を与えない。

もし乾電池の液が漏れたときは、漏れた液を拭き取り、ご利用を中止してください。万一、液が体についたときは傷害を起こす恐れがあります。すぐにきれいな水でよく洗い流してください。漏液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療をうけてください。

## ⚠警告

- 火の中に投入したり、ハンダ付けしない。
- 指定された種類の乾電池を使用する。

## ⚠注意

- 液漏れや異臭がしたら、使用をやめ、ただちに火気より遠ざける。

本製品は、故障・修理などによってデータが消えることがあります。万一データが消えても、弊社としては内容についてまでの責任は負いかねます。重要なファイルについては、定期的にバックアップをお取りください。

# ご利用にあたってのお願い

- 本製品をパソコンに接続してファイルを読み書きしている最中は、パソコンから本製品を取り外さないでください。故障、データ破壊の原因となります。
- 本製品をパソコン本体に接続したままパソコンを起動した場合、本製品を認識しない場合があります。その場合は、いったん取り外してから接続し直してください。
- USB ハブに本製品を接続する場合、ご利用の環境によっては正常に動作しない場合があります。その場合は、パソコン本体の USB ポートに直接接続してください。
- 本製品はサスペンド / スタンバイ / スリープなどのモードに対応しておりません。
- USB ポートに接続しても、まれに認識しない場合があります。その場合は、いったん取り外してから接続し直してください。
- 録り直しのきかない録音の場合、必ず事前に試し録音をしてください。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録音されなかった場合の録音内容については保証致しかねます。あらかじめご了承ください。
- 本体は防水仕様になっていません。水に濡らしたり、湿度の高い所に置かないでください。
- 本製品をズボンやスカートの後ろのポケットに入れたまま、座席や椅子などに座らないでください。
- 鞄などに入れる場合は、重たい物の下にならないようにご注意ください。

# 付属品について

本製品には、以下のような付属品が同梱されています。お使いになる前に、まず付属品がすべて揃っていることをご確認ください。万一、付属品の不足や破損がございましたら、弊社サポートセンター（P.117）にご連絡ください。

インナーイヤホン

USB 延長ケーブル

ダイレクトレコーディングケーブル

単 4 型アルカリ乾電池

ネックストラップ

ソフトウェア CD-ROM

取扱説明書（本書）

クイックマニュアル

上記のほかに保証書およびユーザー登録はがき（P.118）が付属されています。また、カタログや注意書きの別紙が同梱されている場合があります。

※イラストはイメージです。実際のものと異なります。

# 目次

**はじめに / 製品の特長** ........ **2**
**必ずお読みください** ........ **4**
**安全上のご注意** ........ **5**
**乾電池についての安全上のご注意** ........ **9**
**ご利用にあたってのお願い** ........ **10**
**付属品について** ........ **11**
**お使いになる前に（準備）** ........ **15**
各部の名称と機能 ........ 16
正面 ........ 16
上側面 ........ 17
下側面 ........ 17
左側面 ........ 18
背面 ........ 18
乾電池の取り付けかた ........ 19
ディスプレイの見かた（メイン画面～音楽再生モード） ........ 20
ディスプレイの見かた（FM ラジオ画面） ........ 22
**すぐに使おう（基本操作編）** ........ **23**
電源を入れよう ........ 24
電源を切ろう ........ 25
曲を再生しよう ........ 26
いろいろな再生のしかた ........ 27
早送り ........ 27
巻き戻し ........ 27
頭出し再生 ........ 27
レジューム機能について ........ 28
内蔵スピーカーで再生しよう ........ 29
一定区間を繰り返し再生しよう（区間リピート再生） ........ 30
誤動作を防ごう（ロック機能） ........ 32
曲を選ぼう（フォルダー機能） ........ 33
不要な曲を削除しよう ........ 36
本体で手軽に録音を楽しもう ........ 40
内蔵マイクで録音しよう～ボイス録音 ........ 41
オーディオ機器と接続して録音しよう～外部入力（ライン）録音 ........ 43
本体をオーディオ機器と接続する ........ 43

00X-Seven2.book 13 ページ ２００６年７月１４日 金曜日 午後２時０分




シンクロ機能について ..................... 45

**FM ラジオを聴こう ..................... 47**

ステップ 1：FM ラジオ画面にする ..................... 48

ステップ 2：オートスキャン（自動選局）をする ..................... 49

ステップ 3：チャンネル（放送局）を選ぶ ..................... 51

**FM ラジオを録音しよう～ FM 録音 ..................... 52**

**誤動作を防ごう（FM ラジオロック機能） ..................... 54**

**さらに進んだ使い方（応用編） ..................... 55**

**モードについて ..................... 56**

各モードからメイン画面（音楽再生モード）への戻りかた ..................... 57

**メニュー画面の基本操作方法について ..................... 58**

メニュー画面の基本操作 ..................... 58

メニュー画面からメイン画面（音楽再生モード）への戻りかた ..................... 58

**好みの音質に調整しよう（イコライザ） ..................... 61**

**各種リピート / ランダム再生をしよう（プレイモード） ..................... 63**

**画面のコントラストを調整しよう ..................... 65**

**自動電源オフ時間を設定しよう（オートオフ） ..................... 66**

**録音時の品質を設定しよう（録音設定） ..................... 67**

サンプリングレート / ビットレートと録音時間について ..................... 67

**曲ごとにファイルを分割して録音しよう（シンクロ） ..................... 71**

**FM ラジオの放送局を手動でチャンネル登録しよう（手動チャンネル登録）... 73**

**画面表示の消灯時間を設定しよう（ディスプレイ） ..................... 75**

**スクリーンセーバーを設定しよう ..................... 76**

**表示言語を設定しよう 1 ～メニュー言語 ..................... 77**

**表示言語を設定しよう 2 ～ ID3 言語（タグ） ..................... 78**

**本体の詳細を確認しよう（システム） ..................... 79**

**SD カード（別売り）を使おう ..................... 80**

**付属 CD-ROM( 専用ファームウェアアップデートプログラム ) について ..................... 82**

**パソコンを活用しよう（活用編） ..................... 83**

**お気に入りの CD を X-Seven で楽しもう ..................... 84**

ステップ 1：音楽 CD をパソコンに録音する ..................... 85

ステップ 2：本体をパソコンに接続する ..................... 87

ステップ 3：曲をパソコンから本体に転送する ..................... 89

ステップ 4：パソコンからの取り外しかた ..................... 93

**用語集 ..................... 95**

**使用上のヒントとトラブルシューティング ..................... 97**

**使用上のヒント集～このような時には ..................... 98**

音楽再生編 ........ 98
録音編 ........ 98
その他の機能 ........ 99
困ったときには（メイン画面～音楽再生モード） ........ 100
困ったときには（録音） ........ 102
困ったときには（FM ラジオ画面） ........ 103
困ったときには（全体的な操作） ........ 104
その他のよくあるお問い合わせ ........ 106
**付録 ........ 111**
主な仕様 ........ 112
ハードウェア保証規定 ........ 114
保証品送付のご案内 ........ 116
サポートセンターのご案内 ........ 117
ユーザー登録のご案内 ........ 118
シーグランドのプライバシーに関するポリシー ........ 119
シーグランドの個人情報保護に関するポリシー ........ 120
お問い合わせ票（トラブルシート） ........ 122
**索引 ........ 123**

00X-Seven2.book　15 ページ　２００６年７月１４日　金曜日　午後２時０分

# お使いになる前に（準備）

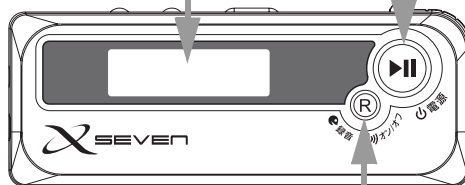
各部の名称やディスプレイに表示されるマークの意味など、本製品の操作に必要な内容について紹介します。特に、本製品をはじめてお使いになる場合に必ずお読みください。

※本取扱説明書に掲載している画像に､現物と表示が異なる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

# 各部の名称と機能

## 正面

**ディスプレイ**
曲名（ファイル名）などさまざまな情報を表示します（P.20）。

**電源 / 再生・一時停止 ボタン**
**数秒間押し続ける**と、電源を入れたり切ることができます（P.24,25）。
また、**短く押す**と曲を再生したり停止することができます（P.26）。

**録音 / スピーカー ボタン**
**数秒間押し続ける**と、録音を開始します（P.41,52）。
また、**短く押す**と内蔵スピーカーのオン / オフを切り替えることができます（P.29）。

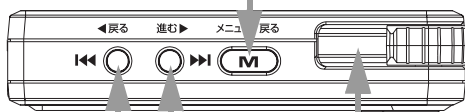
**操作上の注意**

本体に搭載されている各ボタンは、操作する時間によって操作内容が変わる場合があります。
本取扱説明書では、ボタンを瞬時に短く押す場合は「**短く押す**」、2 秒以上押し続ける場合は「**数秒間押したまま**（**押し続ける**）」と表記しています。

## 上側面

**メニュー / 戻る ボタン M**

メニュー画面（メニューモード）の表示や、メニュー選択項目の確定、メニュー画面からメイン画面（音楽再生モード）に戻る操作を行います（P.58）。

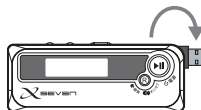
また、録音中に押すと録音を停止します（P.41,43,52）。

**巻戻し / 戻る ボタン|◀◀**

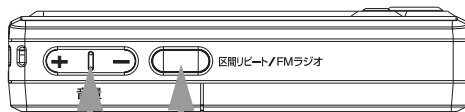
**早送り / 進む ボタン▶▶|**

曲の早送り / 巻戻しや頭出し再生を行います（P.27）。

また、各種メニュー項目や設定の選択を行います（P.58）。

**USB コネクタ**

回転させると USB コネクタを取り出せます。パソコンのUSBポートや付属の USB 延長ケーブルと接続します（P.87）。

**指を怪我しないようご注意ください**

## 下側面

**音量ボタン ＋ / －**

音量を調整します（P.27）。

**区間リピート / FM ラジオ ボタン**

曲の再生中に 2 回押すと、その区間を繰り返して再生することができます（P.30）。

また、数秒間押したままにすると、FM ラジオ画面(FM ラジオモード)に切り替わります(P.47)。

## 左側面

**マイク**
ボイス録音時に使います(P.41)。

**外部入力ジャック**
付属のダイレクトレコーディングケーブルを使ってCDやMDなどのオーディオプレーヤーと接続し、録音します（P.43)。

**SDカードスロット**
別売りのSDカードを装着します（P.80)。

**イヤホンジャック**
付属のインナーイヤホンを接続します。

**ストラップ取り付け口**
付属のストラップを取り付けます。

## 背面

**バッテリーカバー**
カバーを外して単４型アルカリ乾電池を１本入れます。

**内蔵スピーカー**
オン/オフの設定が可能です(P.29)。
※インナーイヤホンを接続すると音は鳴りません。

# 乾電池の取り付けかた

本製品に使える電源は、単４型アルカリ乾電池（1 本）です。必ず指定の乾電池を使用してください。

**1** バッテリーカバーを外す

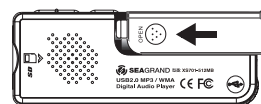
図の部分を軽く押したまま矢印にそってスライドさせてください。

**2** 乾電池を入れる

＋と－の向きに注意してください。

**乾電池は必ず"－"側から取り付けてください。**

**3** バッテリーカバーを取り付ける

矢印にそって水平にスライドさせてください。

**注意**

- 乾電池を交換するときは、電源をオフにしてください。
- バッテリーカバーの取り外しや取り付けは丁寧に行ってください。無理に取り外し、または取り付けしようとすると破損する場合があります。
- 乾電池の＋／－方向を間違えないようにご注意ください。
- 単 4 型アルカリ乾電池以外を使用すると性能が低下する場合があります。

準備

再生／録音

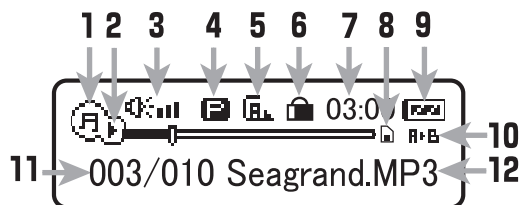
FMラジオ

応用編

PC活用編

困った時は

付録／索引

# ディスプレイの見かた（メイン画面～音楽再生モード）

**注意**

再生時や停止時によって画面の表示が異なるため、すべてのアイコンが常に表示されているわけではありません。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | | **モード表示（P.56）**<br>：音楽再生モードを表します（P.56）。<br>：ボイスメモモードを表します（P.56）。<br>：外部入力モードを表します（P.57）。 |
| 2 | ▶■ ▌▌ | **再生 / 一時停止 / 停止表示（P.26）**<br>再生中、一時停止、停止中の各状態を表示します。 |
| 3 | | **音量レベル表示（P.27）**<br>再生中の音量レベルを表示します。 |
| 4 | | **イコライザ表示（P.61）**<br>再生時の音質（イコライザ）を表示します。<br>ノーマル / ロック / ジャズ / クラシック / ポップ / ユーザーの 6 種類から選択できます。 |
| 5 | | **再生方式（プレイモード）表示（P.63）**<br>リピート再生やランダム再生などの再生方式（プレイモード）を表示します。<br>ノーマル再生 / 1 曲リピート再生 / 全曲リピート再生 / ランダム再生 / ランダムリピート再生 / フォルダー再生 / リピートフォルダー再生 / ランダムフォルダー再生の 8 種類から選択できます。<br>※ノーマルを選んだ場合は表示されません。 |

| | | |
|---|---|---|
| 6 | | **ロックマーク表示（P.32）**<br>ロック機能がオンの場合に、ロックマークを表示します。<br>※オフの場合は表示されません。 |
| 7 | 03:00 | **タイムカウンター表示**<br>再生 / 停止中の曲の経過時間を［分：秒］の単位で表示します。 |
| 8 | | **SD カード表示（P.80）**<br>別売りのSDカード使用時に表示されます。SDカードを使用していない場合は表示されません。 |
| 9 | | **電池レベル表示（P.24）**<br>電池の残量（目安）を表示します。 |
| 10 | A-B | **区間リピート表示（P.30）**<br>区間リピート（くり返し）再生を選択したときに表示されます |
| 11 | 003/010 | **曲番号 / 曲数表示**<br>再生または停止中のオーディオファイルの曲番号（左）と本体内蔵メモリに保存されている全曲数（右）を表示します。 |
| 12 | Seagrand.MP3 | **ファイル名表示**<br>再生または停止中の曲のファイル名を表示します。<br>※曲名情報を含んだ ID3 タグ情報（P.96）を持ったオーディオファイルの場合は、曲名を表示します。 |

# ディスプレイの見かた（FM ラジオ画面）

**注意**

FM ラジオ受信時や停止時によって画面の表示が異なるため、すべてのアイコンが常に表示されているわけではありません。

| | | |
|---|---|---|
| 1 |  | **FM ラジオモード表示（P.47）**<br>FM ラジオ受信状態であることを表します。 |
| 2 | ch01 | **チャンネル番号表示（P.51）**<br>オートスキャン（自動選局）などで放送局（周波数）を割り当たチャンネル番号を表示します。 |
| 3 | PRESET | **プリセットモード表示（P.51）**<br>チャンネルを選択して放送局（周波数）を選べるプリセットモードの状態を表します。<br>表示が消えている場合は、手動で周波数を設定するマニュアルモードの状態を表します。 |
| 4 | STEREO | **ステレオ / モノラル表示**<br>受信している FM 放送のステレオ / モノラルの状態を表示します。 |
| 5 | 80 . 0 MHz | **受信周波数表示**<br>受信中の周波数を表示します。 |

# すぐに使おう
# （基本操作編）

## ～ここを読めばすぐに使えます～

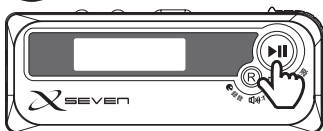
この章では、音楽の再生や録音、そして FM ラジオの使いかたといった、本製品のもっとも基本的な操作を説明しています。お買い上げ後、すぐに XS701 をご利用いただく場合は、この章だけ読んでも本製品をご利用いただけます。

**※各種設定やパソコンを利用した使いかたやなど、XS701 のさらに進んだ使いかたについては、次章以降のページをご覧ください。**

**音楽を楽しむためのマナー**

電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮したうえでお楽しみください。

## 基本の操作 電源を入れよう

**1**

### ⏯を**数秒間押す**

［メニューボタンを押してください］と表示されます。

メニューボタンを押してください

● ⏯を押す時間が短いと、電源は入らない場合があります。

**2**

### Ⓜを**短く**押す

正常に電源が入ると、音楽を再生できる**メイン画面（音楽再生モード）**が表示されます。

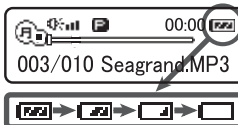
00:00
003/010 Seagrand.MP3

**3**

### 電池レベル表示を確認する

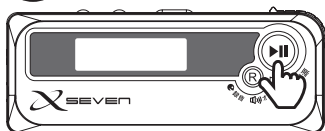
残量が少ないときは、電池を交換してください。

右へいくほど電池残量が少ない状態を表し、残量がなくなると、電池レベル表示が点滅を始めます。

00:00
003/010 Seagrand.MP3

**注意**

● 電源が入らない場合は、電池の残量が低下している可能性があります。新しい電池と交換してください。

# 基本の操作　電源を切ろう

1

## 右図が消えるまで ▶II を**押し続ける**

ボタン長押しで電源が切れます

右図の表示が消えると、自動的に電源が切れます。

- 右図の表示が消える前に ▶II から手を離すと、電源は切れません。

**注意**

- 電源が切れない場合は、次の点をご確認ください。
  - ・▶II を押し続けているか
  - ・ロック機能がオンになっていないか（P.32）
  - ・パソコンと接続していないか<br>（接続している場合は、「パソコンからの取り外しかた（P.93）」に従って、パソコンから取り外してください）

## すぐに使う 曲を再生しよう

XS701 は、本体で録音したり、Windows Media Player やインターネットなどを使って本体に取り込んだ曲（WMA/MP3 形式のオーディオファイル）を再生して音楽を楽しむことができます。

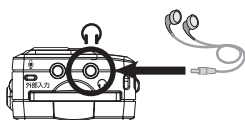
ここでは、曲の再生のしかたを説明します。

**ヒント**

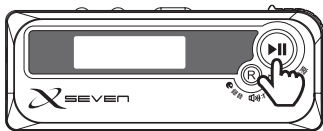
- 本製品をご購入後、すぐに再生機能を確認したい場合は、お買い上げ時にあらかじめ保存されているサンプル曲を再生してください。

**用語**

- WMA/MP3 形式とは？（P. 95）

### 1

にインナーイヤホンを接続する

- 内蔵スピーカーでも再生できます（P. 29）。

### 2

を**短く押して**曲を再生する

- を長く押し続けると電源が切れます（P. 25）。

**いろいろな再生のしかた**

曲の再生中に|◀◀/▶▶|を次のように操作すると、いろいろな再生ができます。

**●早送り**

▶▶|を**押したまま**にする

**●巻き戻し**

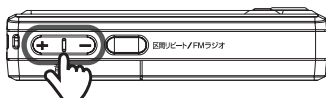
|◀◀を**押したまま**にする

**●頭出し再生**

▶▶|を**短く押す**　⇒次の曲を頭出し再生します

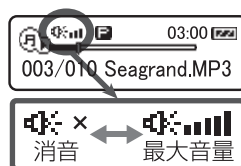
|◀◀を**短く押す**　⇒再生中の曲を頭出し再生します

- 曲を最初から再生し始めて5秒以内に|◀◀を短く押すと、前の曲を頭出し再生します。
- 曲の一時停止中に|◀◀/▶▶|を短く押すと、前 / 次の曲を選べます。

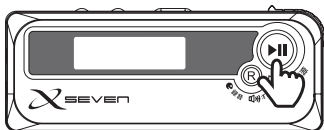
**3**

## (＋|－)を押して音量を調節する

音量レベルはディスプレイに表示されます。

**注意**

- 電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮したうえでお楽しみください。
- 再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳を痛めることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。

次のページへ

準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

## 4

### ⏯を**短く押して**一時停止する

**再度⏯を短く押すと、停止したところから再生します。**

- ⏯を長く押し続けると電源が切れます（P. 25）。

**レジューム機能について**

XS701 はレジューム機能に対応しています。電源オフ後も、直前に再生していた曲を記憶しており、次回電源を入れたときに、その曲の先頭から再生することができます。

**ワンポイント**

- ノーマル/ロック/ジャズ/クラシック/ポップスなど多彩な音楽ジャンルに最適化された 5 種類のプリセットイコライザで、好みの音質で音楽を楽しむことができます（イコライザ機能）（P. 61）。
- 各種繰り返し再生（リピート再生機能）（P. 63）や、曲の一部区間を繰り返し再生することもできます（区間リピート機能）（P. 30）。
- ランダムな曲順で再生することができます（ランダム再生機能）（P. 63）。
- 不要なオーディオファイルを本体の操作で削除することもできます（P. 36）。

**トラブル**

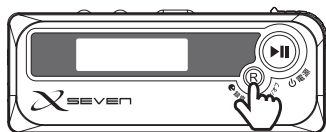
- 曲が再生できない（P. 100）
- ボタンが操作できない（P. 104）

# すぐに使う 内蔵スピーカーで再生しよう

XS701 にはスピーカーが内蔵されており、インナーイヤホンがなくても音楽を再生することができます。

ここでは、内蔵スピーカーのオン / オフのしかたを説明します。

**注意**

● 内蔵スピーカーをオンに設定すると、イヤホンジャックにインナーイヤホンを接続していても内蔵スピーカーから音が鳴ります。

## 曲を再生させながらⓇを**短く押す**

**Ⓡを短く押すたびに、内蔵スピーカーのオン / オフが切り替わります。**

● Ⓡを押す時間が長いと、ボイス録音が開始されます (P.41)。

● Ⓜを短く押してメニューを表示させ、[6:セッテイ] → [11:スピーカー] から内蔵スピーカーのオン / オフを設定することもできます (P.59)。

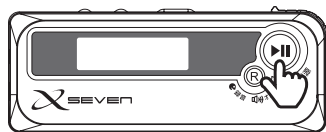
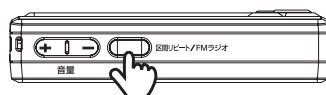
# すぐに使う 一定区間を繰り返し再生しよう（区間リピート再生）

XS701 は、曲の再生中にリピートの開始点（A）と終点（B）を設定し、その区間を繰り返してリピート再生できます。

ここでは、区間リピート再生のしかたを説明します。

## 1

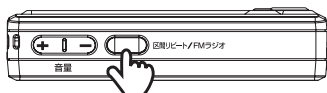
(▶II)を**短く押して**曲を再生する

003/010 Seagrand.MP3

## 2

リピート再生を開始したいポイントで
**[ 区間リピート ] ボタン**を**短く押す**

003/010 Seagrand.MP3

開始点（A）が設定され、ディスプレイにA▶と表示されます。

- [ 区間リピート ] ボタンを長く押し続けるとFMラジオ画面(FMラジオモード）になります（P.48）。

3

## リピート再生を終了したいポイントで **[ 区間リピート ] ボタン**を**短く押す**



終了点（B）が設定され、ディスプレイに A▸B と表示されます。A-B 区間がリピート再生されます。

- 区間リピート再生を解除するには、もう一度[区間リピート]ボタンを押します。

**ワンポイント**

- 2 曲以上をまたがって A/B ポイントを設定することはできません。
- A/B ポイントの設定は、電源をオフにすると失われます。終了点 (B) を設定せずに曲が終わると、開始点 (A) の設定がキャンセルされます。
- 曲の頭出し再生を行うと、区間リピート再生が解除されます。

**トラブル**

- ボタンが操作できない （P. 104）

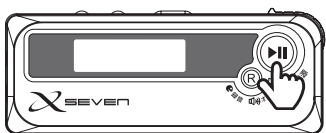
## 基本の操作　誤動作を防ごう（ロック機能）

ロック機能を使うと、気付かないうちに各種ボタンが押されるといった誤動作を防げます。ロック機能がオンになっているときは、ディスプレイにロックオンマークが表示されます。
ここでは、ロック機能のオン / オフのしかたを説明します。

**1**

Ⓜを**短く押して**メニュー画面にする

- メニュー画面で何も操作せずに約10秒以上経過すると、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**2**

［ロック オン］で⏯を**短く押す**

⇒ロックがオンになり、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

- ロック機能をオンにすると、電源のオン / オフも操作できません。

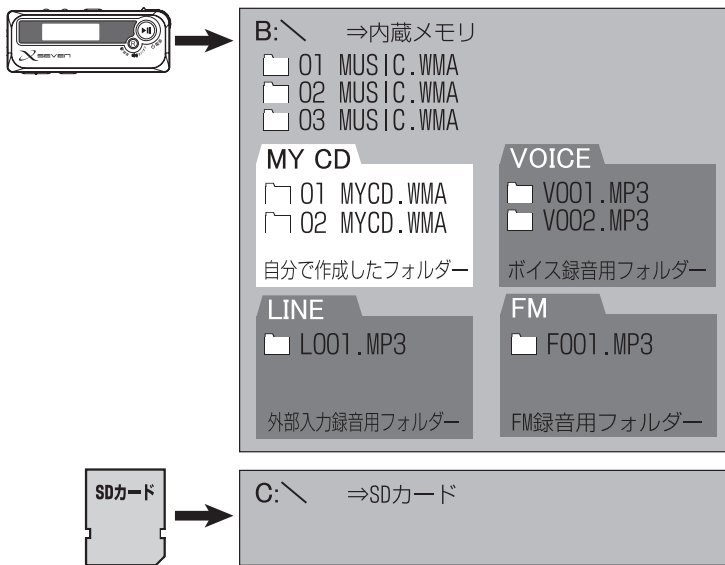
［ロック オフ］で⏯を**短く押す**

⇒ロックがオフになり、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

# すぐに使う　曲を選ぼう（フォルダー機能）

XS701 は、フォルダー単位で曲（オーディオファイル）を管理できます。例えば、アーティストやアルバム（CD）ごとにフォルダーを作成して曲を保存しておくと、再生や曲を探すときに便利です。

ここでは、曲の選びかたを説明します。

## 内蔵メモリ＆SDカードと フォルダー/ファイルの保存イメージ（階層図）

- 内蔵メモリには､ボイス録音のファイルが保存される［VOICE］フォルダー､外部入力（ライン）録音のファイルが保存される［LINE］フォルダー、FM 録音のファイルが保存される［FM］フォルダーは、各録音時に自動作成されます。
- パソコンを利用すると、自由にフォルダーを作ることができます。

次のページへ

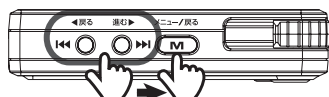
## 1

(M)を**短く押して**メニュー画面にする

● メニュー画面で何も操作せずに約10秒以上経過すると、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

## 2

▶▶|を１回押して[**2:フォルダー**]を選び、(M)を**短く押す**

## 3

|◀◀/▶▶|を押して[**B:**]または[**C:**]を選び、(M)を**短く押す**

B:\ ➡ 内蔵メモリ
C:\ ➡ SDカード

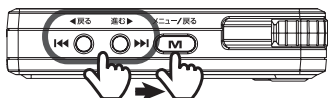
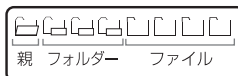
**[B:\]**

内蔵メモリに保存されているフォルダー / ファイル一覧が表示されます。

**[C:\]**

SD カード使用時に、SD カードに保存されているフォルダー / ファイル一覧が表示されます。

● |◀◀/▶▶| を押すと [B:] と [C:] を切り替えられます。

**4**

## ⏮/⏭を押してフォルダー / ファイルを選ぶ

親　フォルダー　ファイル

：親フォルダー

Ⓜを押すと、ひとつ上の階層（親フォルダー）に戻ります。

：フォルダー

フォルダー名が表示されます。

Ⓜを押すと、フォルダー内のファイル一覧が表示されます。

：ファイル

ファイル名が表示されます。

Ⓜを押すと選んだファイル（曲）が再生されます。

**注意**

- メニュー画面で何も操作せずに約 10 秒以上経過すると、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。
- Ⓜを数秒間押したままにすると、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。Ⓜを操作するときは、短く押してください。

# すぐに使う 不要な曲を削除しよう

XS701 で録音したり、パソコンを利用して本体内蔵メモリに保存した曲（オーディオファイル）のうち、不要なファイルは、パソコンを使わずに本体の操作のみで削除することができます。

ここでは、曲の削除のしかたを説明します。

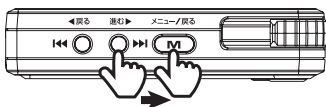
**ヒント**

- 本体をパソコンと接続すれば、パソコン操作でファイルやフォルダーを削除することもできます。詳細は、ご利用されている製品の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

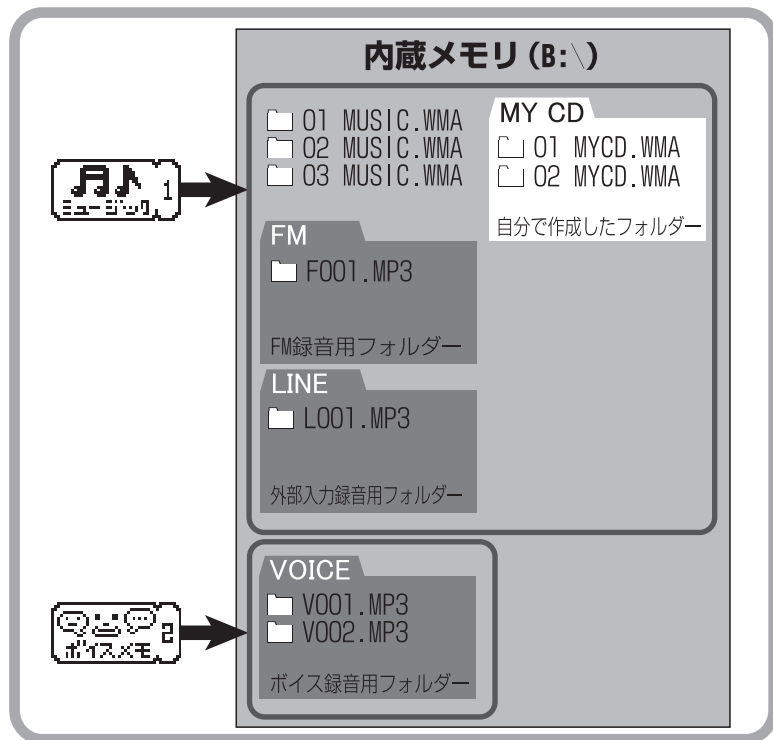
## 1

**M** を**短く押して**メニュー画面にする

- メニュー画面で何も操作せずに約10秒以上経過すると、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

## 2

▶▶|を 6 回押して [**7:サクジョ**] を選び、**M** を**短く押す**

削除メニューが表示されます。

|◀◀/▶▶|を押してグループを選び、
(M)を**短く押す**

次のページへ

：**ミュージック**
フォルダー、ラインフォルダー、FM フォルダーおよび自分で作成したフォルダー内の曲を削除する場合に選びます。

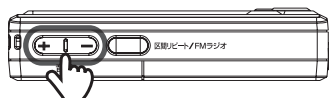
：**ボイスメモ**
ボイスフォルダー内の曲を削除する場合に選びます。ボイス録音した曲（オーディオファイル）はここに保存されています。

：**モドル**
削除を中止する場合に選びます。

## 4

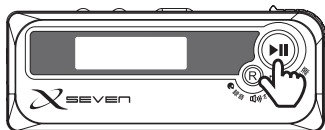
|◀◀/▶▶|を押して削除する曲を選ぶ

削除しますか？ YES✔ NO✖
Seagrand.MP3

## 5

(＋ | －)を押して [**YES**] または [**NO**] を選択する

削除しますか？ YES✔ NO✖
Seagrand.MP3

YES✔ NO✖ ⇒削除します

YES✔ NO✖ ⇒削除しません

## ▶IIを短く押す

ファイルを削除しました

YES✔ NO✖ ＋ ▶II ⇒［ **ファイルを削除しました** ］と表示された後、次の曲が選ばれます。

YES✔ NO✖ ＋ ▶II ⇒削除せずに、次の曲が選ばれます。

**注意**

● **一度削除したファイルは元に戻せません。**充分にご確認のうえ操作してください。

**操作が終わったら…**

メイン画面（音楽再生モード）に戻る ⇒Ⓜを数秒間押したままにします。

ひとつ前の画面に戻る ⇒Ⓜを短く押します。

# すぐに使う　本体で手軽に録音を楽しもう

XS701 は、次の３とおりの録音機能を搭載しており、本体だけで手軽に音楽やボイスメモなどの録音が行えます。

## ボイス録音（P.41）

内蔵マイクで録音します。会議や語学レッスンをはじめ、とっさのときにボイスメモを残すのに便利です。

## 外部入力 ( ライン ) 録音（P.43）

外部オーディオ機器と本体を付属ダイレクトレコーディングケーブルで接続し、音楽を直接録音します。CD や MD などの音楽を録音するのに便利です。

## FM 録音（P.52）

受信している FM ラジオの内容を、そのまま本体に録音します。

各録音方法の詳細は、それぞれの参照ページをご覧ください。

### 録音品質(サンプリングレート / ビットレート)と録音時間について

各録音では、録音品質を設定できます。録音内容や目的によってサンプリングレート（WAV 形式での録音の場合）/ ビットレート（MP3 形式での録音の場合）を上手に使い分けることで、高音質録音をしたり、録音曲数や録音時間を増やせます。詳しくは、「録音時の品質を設定しよう（録音設定）」（P.67）をご覧ください。

長時間録音

高音質

**MP3形式の場合**（録音時間重視）
96kbps ―― 128kbps ―― 192kbps
**WAV形式の場合**（音質重視）
8000Hz ―――― 22050Hz

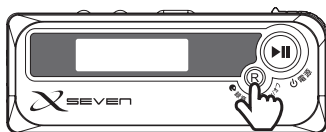
- ボイス / FM 録音時の MP3 形式録音の最高品質は 128kbps です。
- 外部入力（ライン）録音時に録音できる形式は MP3 形式のみです。
- WAV 形式（P. 95）は、データを圧縮しないので高音質ですが、データ量は大きくなります（録音時間が短くなります）。
- MP3 形式（P. 95）は、音楽 CD 並の音質で、データ量を約 1/10 以下にすることができます（長時間録音に適しています）。

# すぐに使う 内蔵マイクで録音しよう～ボイス録音

XS701 はマイクを内蔵しており、本体だけで手軽に**ボイス録音**ができます。ここでは、ボイス録音のしかたを説明します。

**準備**

● 録音を開始する前に、録音品質を設定しておきます（P. 68）。

## 1

### Ⓡを**数秒間押したまま**にする

レコードスタートは"R"
ボタンを押して下さい

録音が開始し、録音ファイル名、録音経過時間が表示されます。

**録音中にⓇを短く押すと録音が一時停止され、再び短く押すと録音を再開します。**

● 録音を開始する際に、Ⓡを押す時間が短いと、録音は開始されません（内蔵スピーカーのオン / オフが切り替わります）。

## 2

### Ⓜを**短く押して**録音を停止する

00:00
003/010 Seagrand.MP3

ファイルが保存され、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

次のページへ

- ボイス録音した曲は、V001.***、V002.***、V003.***…（*** は WAV または MP3）というファイル名で［VOICE］フォルダー内に保存されます。
- ボイス録音した曲は、ボイスメモモード（P.56）で再生できます。

**注意**

- 録音の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で録音レベル設定はできませんのでご注意ください。
- 録音したい音源の方向に内蔵マイクを向けて録音してください。
- 電池の残量が少ないと、［バッテリ残量低下］と表示され、録音が停止します。録音時は、充分に残量のある電池をお使いください。
- 録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録音されなかった場合の録音内容については保証致しかねます。あらかじめご了承ください。
- XS701 で扱えるファイル数・フォルダー数の上限は 400 です。

**ワンポイント**

- ボイス録音では、WAVまたはMP3のいずれかの録音ファイル形式を選択できます（P.68）。
- 内蔵メモリの空き容量がない状態では、ディスプレイに［メモリがいっぱいです］と表示され録音ができません。不要なファイルを削除したり（P.36）、パソコンに必要なファイルをバックアップするなどして、メモリの空き容量を増やしたうえで録音を行ってください。
- **Ⓜを短く押してメニューを表示させて［9：ボイスロクオン ］を選び、Ⓜを短く押してもボイス録音を開始することができます。**

**トラブル**

- 録音できない（P.102）
- 録音した音が悪い（P.102）
- 録音した音が異常に小さい（P.103）
- ボタンが操作できない（P.104）

# すぐに使う オーディオ機器と接続して録音しよう ～外部入力（ライン）録音

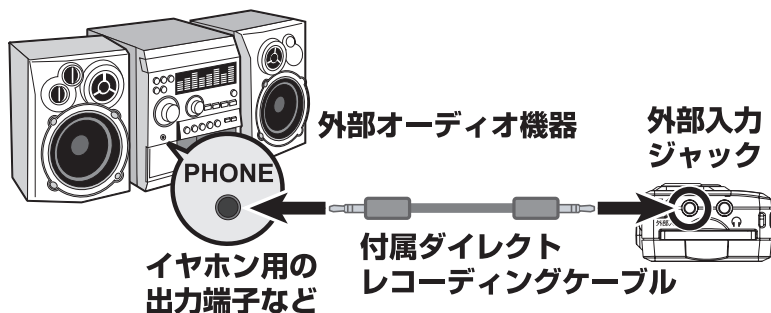
XS701 は、パソコンを使わずに、直接 CD や MD プレーヤーなどのオーディオ機器から**外部入力（ライン）録音**ができます。

ここでは、オーディオ機器との接続のしかたと、録音の方法を説明します。

## 本体をオーディオ機器と接続する

付属のダイレクトレコーディングケーブルを使って、本体とオーディオ機器を接続します。

**オーディオ機器の出力端子**：
　イヤホン端子などのステレオミニ・ジャック

**本体の入力端子：**
　外部入力ジャック（P.18）

**注意**

- 接続するプラグやジャックを間違えると正しく録音できません。オーディオ機器と接続する場合は、充分に確認を行い正しく接続してください。
- **録音の音量レベルは、再生側（オーディオ機器）の音量に依存します。**本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。

次のページへ

準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

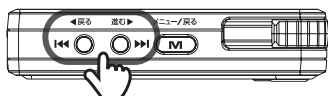
## 2

### (M)を**短く押して**メニュー画面にする

● メニュー画面で何も操作せずに約10秒以上経過すると、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**準備**

● 録音を開始する前に、録音品質を設定しておきます（P. 69）。

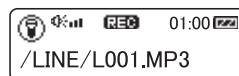
## 3

### ▶▶|を９回押して［**10:ラインロクオン**］を選ぶ

● |◀◀を２回押しても［10: ラインロクオン］を選べます。

## 4

### (M)を**短く押して**録音を開始する

REC 01:00
/LINE/L001.MP3

録音ファイル名、録音経過時間が表示されます。

**録音中に®を短く押すと録音が一時停止され、再び短く押すと録音を再開します。**

● (M)を押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**シンクロ機能について**

外部入力（ライン）録音時には、シンクロ機能が利用できます。これは、一度の録音操作で CD や MD の曲間の無音部分を検知し、曲ごとに録音ファイルを自動分割して保存できる機能です。CD や MD などからたくさんの曲を外部入力（ライン）録音する際にとても便利です。

シンクロ機能の詳細は「曲ごとにファイルを分割して録音しよう（シンクロ）」（P.71）をご覧ください。

**例：音楽 CD を外部入力（ライン）録音する場合**

## 5

## (M) を**短く押して**録音を停止する

ファイルが保存され、メニュー画面に戻ります。

- 外部入力（ライン）録音した曲は、L001.MP3、L002.MP3、L003.MP3…というファイル名で［LINE］フォルダー内に保存されます。
- 外部入力（ライン）録音した曲は、メイン画面（音楽再生モード）（P.56）で再生できます。

次のページへ

**注意**

- 電池の残量が少ないと、[バッテリ残量低下] と表示され、録音が停止します。録音時は、充分に残量のある電池をお使いください。
- 録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。
- 操作上の問題または本製品の不具合により､正常に録音されなかった場合の録音内容については保証致しかねます。あらかじめご了承ください。
- XS701 で扱えるファイル数・フォルダー数の上限は 400 です。

**ワンポイント**

- 外部入力（ライン）録音で録音できるオーディオファイルの形式は、MP3 形式のみです（P.69）。
- 内蔵メモリの空き容量がない状態では、ディスプレイに [メモリがいっぱいです] と表示され録音ができません。不要なファイルを削除したり (P.36)、パソコンに必要なファイルをバックアップするなどして、メモリの空き容量を増やしたうえで録音を行ってください。

**トラブル**

- 録音できない（P.102）
- 録音した音が悪い（P.102）
- 録音した音が異常に小さい（P.103）
- ボタンが操作できない（P.104）

# すぐに使う FM ラジオを聴こう

XS701 には、FM ラジオや 1 ～ 3ch の TV 音声の再生にも対応した FM チューナーが内蔵されています。76.0MHz ～ 108.0MHz の範囲内であれば海外でも利用できます。

FM ラジオを聴くには、次の 3 ステップの操作を行います。

**ステップ 1：FM ラジオ画面にする（P.48）**

**ステップ 2：オートスキャン（自動選局）をする（P.49）**

**ステップ 3：チャンネル（放送局）を選ぶ（P.51）**

各ステップの詳細は、それぞれの参照ページをご覧ください。

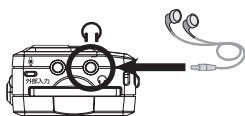
**ワンポイント**

- 電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮したうえでお楽しみください。
- ご購入後、最初に FM ラジオ画面に切り替えたときには、自動的にオートスキャン（自動選局）が始まります（P. 49）。その場合は、ステップ 1 の次にステップ 3 にお進みください。
- 本製品はイヤホンをアンテナとしてFM放送を受信します（イヤホンアンテナ方式）。FMラジオを聴くときは、必ずインナーイヤホンをイヤホンジャックに接続してください。
- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に残量のある電池をお使いください。

準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

## ステップ 1：FM ラジオ画面にする

ここでは、FM ラジオ画面にする方法を説明します。

**1**

にインナーイヤホンを接続する

**2**

メイン画面（音楽再生モード）で **[FM ラジオ ] ボタン**を**数秒間押したまま**にする

画面に [ **お待ち下さい** ] と表示された後、FM ラジオ画面（FM ラジオモード）に切り替わります。

- **[ お待ち下さい ] と表示されている間は、本体操作を行わないでください。**
- メニュー操作から FM ラジオ画面にすることもできます。
- ご購入直後は [ お待ち下さい ] と表示された後、オートスキャン(P. 49)が自動的に実行されます。

**メイン画面（音楽再生モード）に戻るには…**

メイン画面（音楽再生モード）に戻る　⇒ M を数秒間押したままにします。

- M を押す時間が短いと FM メニュー画面（P. 60）が表示されます。

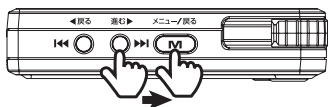
次のステップへ

## ステップ 2：オートスキャン（自動選局）をする

オートスキャン（自動選局）を使うと、自動的に FM ラジオの放送局（周波数）を検出し、チャンネル番号に割り当てて記憶させることができます。一度オートスキャンを行えば、それ以降はチャンネルを選ぶだけですぐに聴きたい放送局を呼び出すことができます。
ここでは、オートスキャン（自動選局）のしかたを説明します。

**1**

FM ラジオ画面で（M）を**短く押して**
FM ラジオメニュー画面にする

**2**

▶▶|を 1 回押して [**2：オートスキャン**]
を選ぶ

次のページへ

準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

## 3

### (M)を**短く押して**オートスキャン（自動選局）を実行する

76.0MHz から 108.0MHz まで周波数が切り替わり、FM ラジオの電波を受信すると、順番にチャンネル 1 ～ 20 までに割り当てられプリセット（保存）されます。

オートスキャンが完了すると、チャンネル 1 の放送局（周波数）が受信されます。

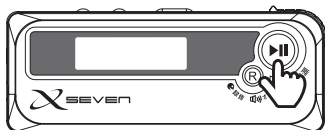
**注意**

- ご購入直後は、FM ラジオ画面にすると、オートスキャン（P. 49）が自動的に実行されます。
- オートスキャン（自動選局）を行うと、それ以前に行ったオートスキャンの内容および手動で放送局（周波数）を割り当てたチャンネル設定の内容は、全て上書きされます。
- 手動で設定した放送局（周波数）をチャンネル番号に自由に割り当てることもできます（P. 74）。

## ステップ３：チャンネル（放送局）を選ぶ

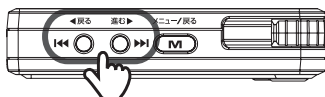
オートスキャン（自動選局）（P.49）や手動設定（P.73）で放送局（周波数）をチャンネルに割り当てておくと、チャンネル番号を選ぶだけで、すぐに聴きたい放送局を呼び出すことができます。

ここでは、チャンネル（放送局）の選びかたを説明します。

**1**

FM ラジオ画面で ▶II を**短く押し**、画面左上に [**PRESET**] のアイコンを表示させる

**▶II を押すごとに [PRESET] アイコンの表示 / 非表示が切り替わります。**

- [PRESET] アイコンが非表示の場合は、手動で放送局（周波数）を設定できます。
- ▶II を長く押し続けると電源が切れます（P. 25）。

**2**

|◀◀/▶▶|を押してチャンネルを選択する

- 受信しているFM放送を録音することもできます（P. 52）。

**メイン画面（音楽再生モード）に戻るには…**

メイン画面（音楽再生モード）に戻る　⇒ Ⓜ を数秒間押したままにします。

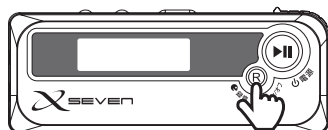
## すぐに使う　FM ラジオを録音しよう～ FM 録音

XS701 は、FM ラジオを聴きながら、その内容を録音できます。気になった音楽や、保存しておきたい放送を、ボタンひとつですぐに **FM 録音**できます。

ここでは、FM ラジオの録音のしかたを説明します。

**準備**

● 録音を開始する前に、録音品質を設定しておきます（P. 70）。

### 1

### FMラジオ画面で Ⓡ を**数秒間押したまま**にする

01:00
/FM/F001.WAV

録音が開始し、録音ファイル名、録音経過時間が表示されます。

**録音中に Ⓡ を短く押すと録音が一時停止され、再び短く押すと録音を再開します。**

● 録音を開始する際に、Ⓡ を押す時間が短いと、録音は開始されません（内蔵スピーカーのオン / オフが切り替わります）。

### 2

### M を**短く押して**録音を停止する

ch01
80 . 0 MHz

ファイルが保存され、FM ラジオ画面に戻ります。

- FM 録音した曲は、F001.***、F002.***、F003.***…（*** は WAV または MP3）というファイル名で［FM］フォルダー内に保存されます。
- FM 録音した曲は、メイン画面（音楽再生モード）(P.56) で再生できます。

### 注意

- 録音の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。
- 録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。
- 電池の残量が少ないと、［バッテリ残量低下］と表示され、録音が停止します。録音時は、充分に残量のある電池をお使いください。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録音されなかった場合の録音内容については保証致しかねます。あらかじめご了承ください。
- XS701 で扱えるファイル数・フォルダー数の上限は 400 です。
- FM 放送を MP3 形式で録音すると電池の消耗が早くなります。FM 放送を長時間録音する場合は、録音形式を WAV 形式に設定することをお勧めします (P.70)。なお、ご購入直後の状態では、WAV 形式に設定されています。

### ワンポイント

- FM録音では、WAVまたはMP3のいずれかの録音ファイル形式を選択できます(P.70)。
- 内蔵メモリの空き容量がない状態では、ディスプレイに［メモリがいっぱいです］と表示され録音ができません。不要なファイルを削除したり (P.36)、パソコンに必要なファイルをバックアップするなどして、メモリの空き容量を増やしたうえで録音を行ってください。
- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に残量のある電池をお使いください。
- **FM ラジオ画面でⓂを短く押して FM ラジオメニューを表示させ、[4:FM ロクオン ] を選んでⓂを短く押しても、FM 録音を開始させることができます。**

### トラブル

- 録音できない（P.102）
- 録音した音が悪い（P.102）
- 録音した音が異常に小さい（P.103）
- ボタンが操作できない（P.104）

準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

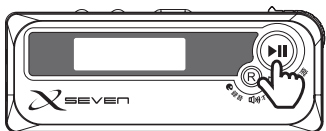
## 基本の操作 誤動作を防ごう（FM ラジオロック機能）

ロック機能を使うと、気付かないうちに各種ボタンが押されるといった誤動作を防げます。ロック機能がオンになっているときは、ディスプレイにロックオンマークが表示されます。
ここでは、ロック機能のオン / オフのしかたを説明します。

**1**

FM ラジオ画面で（M）を**短く押して**
FM メニュー画面にする



**2**



［ロックオン 1］で（▶II）を**短く押す**

⇒ロックがオンになり、FM ラジオ画面に戻ります。

● ロック機能をオンにすると、電源のオン/オフも操作できません。



［ロックオフ 1］で（▶II）を**短く押す**

⇒ロックがオフになり、FM ラジオ画面に戻ります。

# さらに進んだ使い方（応用編）

この章では、曲の再生や録音に関する便利な機能や各種設定方法など、さらに進んだ本製品の使い方について説明しています。必要に応じてお読みください。
曲の再生や録音、FM ラジオの聴きかたなどの基本的な操作については「すぐに使おう ( 基本操作編 )」（P.23）をご覧ください。

# モードについて

XS701 には、5 つのモードがあります。

## モードの切り替えかた

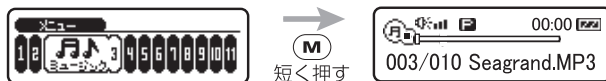
**1** メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面（メニューモード）を表示します。

**2** 下の図を参考に、⏮/⏭に動かして各モードを選びます。

**3** Ⓜを**短く押す**と画面が各モードに切り替わります。

### 音楽再生モード（メイン画面）

Ⓜ 短く押す

00:00
003/010 Seagrand.MP3

**曲（オーディオファイル）の再生**を行います（P.26）。

### FM ラジオモード（FM ラジオ画面）

PRESET STEREO
ch01
80 . 0 MHz

**FM ラジオの受信**や**周波数設定**（P.47）、**FM 録音**を行います（P.52）。

● FM 録音したオーディオファイルは、メイン画面（音楽再生モード）で選択 / 再生ができます。

### ボイスメモモード

00:00
001/003 /V001.WAV

**ボイス録音**（P.41）や、**ボイス録音したオーディオファイルの再生**を行います。

● **ボイス録音したオーディオファイルは、メイン画面（音楽再生モード）では選択 / 再生することができません。**ボイスメモモードで再生してください。

**外部入力モード**

短く押す

/LINE/L001.MP3

外部オーディオ機器からの**外部入力（ライン）録音**を行います（P.43）。

● 外部入力（ライン）録音したオーディオファイルは、メイン画面（音楽再生モード）で選択 / 再生ができます。

**メニューモード（メニュー画面）**

**各種設定**を行います（P.58）。

## 各モードからメイン画面（音楽再生モード）への戻りかた

### FM ラジオモード以外の場合

**1** Ⓜを**短く押して**メニュー画面（メニューモード）を表示します。

**2** ⏮/⏭に動かして［ **モドル** ］を選び、Ⓜを**短く押し**ます。

### FM ラジオモードの場合

**1** FM ラジオ画面でⓂを**数秒間押したまま**にします。

# メニュー画面の基本操作方法について

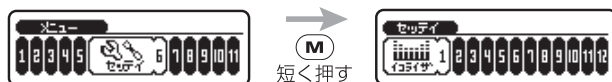
メニュー画面では、再生や録音方法をはじめ、本体の操作に関するさまざまな設定ができます。

全メニュー共通の基本的な操作方法は以下のとおりです。

## ●メニュー画面の基本操作

1 メニュー画面は、メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**表示します。

2 ⏮/⏭を動かして設定したいメニューを選び、Ⓜを**短く押す**と各設定メニューの内容が表示されます。

3 同様に、設定項目を⏮/⏭で選び、Ⓜを**短く押して**確定します。

**ワンポイント**

- メニューの内容によって、一部操作手順が異なる場合があります。詳しくは、各参照ページをご覧ください。
- メニュー画面を表示させた後、何も操作せずに約 10 秒以上経過すると、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

## ●メニュー画面からメイン画面（音楽再生モード）への戻りかた

1 ⏮/⏭を押してメニュー一覧の中から［**モドル**］を選びます。

2 Ⓜを**短く押す**と、**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**ワンポイント**

- **Ⓜを数秒間押したままにしても、メイン画面（音楽再生モード）に戻ることができます。**

# メイン画面（音楽再生モード）メニュー一覧

**[ロックオン / オフ]：**ロック機能のオン / オフを設定します（P.32）

**[フォルダー]：**再生する曲を選びます（P.33）

**[ミュージック]：**メイン画面（音楽再生モード）にします（P.56）

**[ボイスメモ]：**ボイスメモモードにします（P.56）

**[FM ラジオ]：**FM ラジオモードにします（P.48）

**[セッテイ（設定)]：**以下の設定メニューを表示します

- **[イコライザ]：**再生する音質を設定します（P.61）
- **[プレイモード]：**リピートなど再生方式を設定します（P.63）
- **[コントラスト]：**ディスプレイ画面の輝度を設定します（P.65）
- **[オートオフ]：**自動で電源をオフにする時間を設定します（P.66）
- **[ボイスロクオン]：**ボイス録音の品質を設定をします（P.68）
- **[ラインロクオン]：**外部入力（ライン）録音の品質を設定します（P.69）
- **[ディスプレイ]：**ディスプレイの消灯時間を設定します（P.75）
- **[スクリーンセーバー]：**スクリーンセーバーのオン / オフを設定します（P.76）
- **[メニューゲンゴ]：**画面に表示する言語を設定します（P.77）
- **[ID3 ゲンゴ]：**ID3 タグを表示する言語を設定します（P.78）
- **[スピーカー]：**内蔵スピーカーのオン / オフを設定します（P.29）
- **[モドル (戻る)]：**メニュー画面に戻ります

次のページへ

**[サクジョ]：** 不要な曲を削除します（P.36）

**[システム]：** 本体のバージョンや内蔵メモリの情報を表示します（P.79）

**[ボイスロクオン ( ボイス録音 )]：** ボイス録音を開始します（P.41）

**[ラインロクオン ( ライン録音 )]：** 外部入力(ライン)録音を開始します(P.43)

**[モドル ( 戻る )]：** メイン画面（音楽再生モード）に戻ります

## FM ラジオモード　FM メニュー画面一覧

**[ロックオン / オフ]：** ロック機能のオン / オフを設定します（P.54）

**[オートスキャン（自動選局)]：** 自動選局を行います（P.49）

**[CH トウロク]：** 手動で放送曲（周波数）をチャンネルに割り当てます（P.73）

**[FM ロクオン]：** FM 録音を開始します（P.52）

**[ロクオンセッテイ]：** FM 録音の品質を設定します（P.70）

**[モドル ( 戻る )]：** FM ラジオ画面に戻ります

# 好みの音質に調整しよう（イコライザ）

６つの音楽ジャンルに最適化されたイコライザが用意されており、好みの音質で音楽を楽しめます。

**操作手順：　2, 5　1, 3, 4, 6**

**1**　メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**2**　▶▶|を５回押して［**6：セッテイ**］を選ぶ

**3**　Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

**4**　［**1：イコライザ**］が選ばれていることを確認し、Ⓜを**短く押す**

イコライザ設定メニューが表示されます。

- ［1:イコライザ］が選ばれていない場合は、|◀◀/▶▶|を押して選んでください。
- Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**5**　|◀◀/▶▶|に押して**イコライザのタイプ**を選ぶ

イコライザのタイプは、次の６種類です。

**ノーマル**：
通常の音質です。

**ロック**：
ロックに適した音質です。

**ジャズ**：
ジャズに適した音質です。

次のページへ



準備　再生／録音　FMラジオ　応用編　PC活用編　困った時は　付録／索引

**クラシック**：
クラシックに適した音質です。

**ポップ**：
ポップスに適した音質です。

**ユーザー**：
好みの音質に設定できます。

(M)を**短く**押すと以下のポイントを調整でき、好みの音質を保存できます。

[**62Hz/250Hz/1kHz/4kHz/16kHz**]：|◀◀/▶▶|で選択
[**レベル**]：音量ボタン（＋／－）で調整

**6 (M)を短く押す**

設定が確定し、設定メニュー一覧に戻ります。

**ワンポイント**

- (M)を押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。
- メイン画面（音楽再生モード）に戻ると、ディスプレイに選択したイコライザのタイプが表示されます（P.20）。
- 設定した音質によって音量が大きくなったように感じる場合があります。

# 各種リピート / ランダム再生をしよう（プレイモード）

通常の再生方法のほかに、１曲 / 全曲リピート再生やランダム再生が行えます。また、フォルダー単位での各種リピート / ランダム再生も行えます。

**操作手順： 2, 4-1, 5　1, 3, 4-2, 6**

**1** メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**2** ▶▶|を５回押して［**6：セッテイ**］を選ぶ

**3** Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

**4** ▶▶|を１回押して［**2：プレイモード**］を選び、Ⓜを**短く押す**

プレイモード設定メニューが表示されます。

● Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**5** |◀◀/▶▶|に押して**プレイモードのタイプ**を選ぶ

プレイモードのタイプは、次の８種類です。

**ノーマル**：
通常の再生方式で、曲順に再生します。
全曲再生が終わると、再生が停止します。

**リピート１**：
１曲を繰り返し再生します（１曲リピート再生）。

**リピートＡ**：
全曲を繰り返し再生します（全曲リピート再生）。

次のページへ

**ランダム**：
曲順をランダムに入れ替えて再生します（ランダム再生）。

**ランダム A**：
曲順をランダムに入れ替えてリピート再生します（ランダムリピート再生）。

**フォルダー**：
フォルダー内の曲のみを再生します（フォルダー再生）。

**リピート F**：
フォルダー内の曲のみを繰り返し再生します（リピートフォルダー再生）。

**ランダム F**：
フォルダー内の曲のみを曲順をランダムに入れ替えて再生します（ランダムフォルダー再生）。

**6 Ⓜを短く押す**

設定が確定し、設定メニュー一覧に戻ります。

**ワンポイント**

- Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。
- メイン画面（音楽再生モード）に戻ると、ディスプレイに選択した再生方法（プレイモード）のタイプが表示されます（P.20）。

# 画面のコントラストを調整しよう

ディスプレイ画面の輝度（コントラスト）を調整できます。

**操作手順：** **2, 4**-1, **5**　**1, 3, 4**-2, **6**

**1** メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**2** ▶▶|を 5 回押して [**6：セッテイ** ] を選ぶ

**3** Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

**4** ▶▶|を 2 回押して［**3：コントラスト**］を選び、Ⓜを**短く押す**

コントラスト設定メニューが表示されます。

● Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

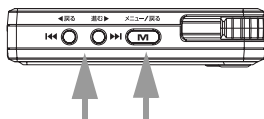
**5** |◀◀/▶▶|を押して**コントラスト**を設定する

コントラストは 10 段階で設定できます。

**6** Ⓜを**短く押す**

設定が確定し、メニュー画面に戻ります。

# 自動電源オフ時間を設定しよう（オートオフ）

一定時間何も操作されなかったときに、自動的に電源がオフになる時間を設定できます。

**操作手順：** **2, 4**-1**, 5** **1, 3, 4**-2**, 6**

**1** メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**2** ▶▶|を 5 回押して [**6：セッテイ** ] を選ぶ

**3** Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

**4** ▶▶|を 3 回押して［**4：オートオフ**］を選び、Ⓜを**短く押す**

オートオフ設定メニューが表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**5** |◀◀/▶▶|を押して**設定時間**を選ぶ

設定できる時間は、次の 5 種類です。

［**オフ**］：
自動電源オフ機能を無効にします。

［**1 分** / **2 分** / **5 分** / **10 分**］：
自動的に電源がオフになる時間を設定します。

**6** Ⓜを**短く押す**

設定が確定し、設定メニュー一覧に戻ります。

- 曲の再生中または録音中、FM ラジオの受信中は、一定時間ボタン操作を行わなくても電源はオフになりません。

# 録音時の品質を設定しよう（録音設定）

ボイス / 外部入力（ライン）/ FM 録音で内蔵メモリに保存する曲（オーディオファイル）の品質（サンプリングレート / ビットレート）を設定します。本製品では、あらかじめ用意された 7 タイプの中から選択できます。

録音設定は、

**ボイス録音**：7 タイプ（WAV/MP3 形式）（P.68）

**外部入力（ライン）録音**：5 タイプ（MP3 形式）（P.69）

**FM 録音**：7 タイプ（WAV/MP3 形式）（P.70）

の中から選択できます。

### サンプリングレート / ビットレートと録音時間について

録音内容や目的によってサンプリングレート（WAV 形式での録音の場合）/ ビットレート（MP3 形式での録音の場合）を上手に使い分けることで、高音質録音をしたり、録音曲数や録音時間を増やせます。

長時間録音 ←→ 高音質

**MP3形式の場合**（録音時間重視）
96kbps —— 128kbps —— 192kbps
**WAV形式の場合**（音質重視）
8000Hz —— 22050Hz

- ボイス / FM 録音時の MP3 形式録音の最高品質は 128kbps です。
- 外部入力（ライン）録音時に録音できる形式は MP3 形式のみです。
- WAV 形式は、データを圧縮しないので高音質ですが、データ量は大きくなります（録音時間が短くなります）。
- MP3 形式は、音楽 CD 並の音質で、データ量を約 1/10 以下にすることができます（長時間録音に適しています）。

次のページへ

ボイス / 外部入力 / FM 録音のサンプリングレート / ビットレートの設定方法は、基本的に同じですが、設定メニューの表示方法が異なります。

## ボイス録音の場合

**操作手順： 2, 4-1, 5　1, 3, 4-2, 6**

**1** メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**2** ▶▶|を 5 回押して [**6：セッテイ**] を選ぶ

**3** Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

**4** ▶▶|を４回押して[**5:ボイスロクオン**]を選び、Ⓜを**短く押す**

ボイス録音設定メニューが表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**5** |◀◀/▶▶|を押して**サンプリングレート/ビットレート**を設定する

設定できるサンプリングレート / ビットレートは、次の 7 タイプです。

**WAV**：[**8000Hz**/**11025Hz**/**16000Hz**/**22050Hz**]
**MP3**：[**96kbps**/**112kbps**/**128kbps**]

**6** Ⓜを**短く押す**

設定が確定し、メニュー画面に戻ります。

- 録音方法については、**「内蔵マイクで録音しよう～ボイス録音」**（P. 41）をご覧ください。

## 外部入力（ライン）録音の場合

**操作手順：　2, 4-1, 5　1, 3, 4-2, 6**

**1** メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**2** ▶▶|を５回押して [**6：セッテイ**] を選ぶ

**3** Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

**4** ▶▶|を５回押して[**6:ラインロクオン**]を選び、Ⓜを**短く押す**

外部入力（ライン）録音設定メニューが表示されます。

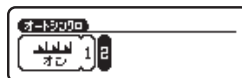
● Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**5** |◀◀/▶▶|を押して**ビットレート**を設定する

設定できるビットレートは、次の５タイプです。

**MP3**：[**96kbps/112kbps/128kbps/160kbps/192kbps**]

**6** Ⓜを**短く押す**

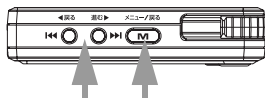
設定が確定し、**シンクロ録音設定メニュー画面**になります。シンクロ録音についての詳細、およびこれ以降の設定手順は「曲ごとにファイルを分割して録音しよう（シンクロ）」（P.71）をご覧ください。

● 録音方法については、**「オーディオ機器と接続して録音しよう ～外部入力（ライン）録音」（P.43）**をご覧ください。

00X-Seven2.book 70 ページ ２００６年７月１４日 金曜日 午後２時０分





## FM 録音の場合

**操作手順： 1**

**操作手順： 3-1, 4 2, 3-2, 5**

**1** メイン画面（音楽再生モード）で [**FM ラジオ** ] ボタンを**数秒間押したまま**にして、**FM ラジオ画面**（FM ラジオモード）にします (P.48)。

**2** FMラジオ画面でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**3** ▶▶|を４回押して [**5:FMロクオンセッテイ**] を選び、Ⓜを**短く押す**

FM 録音設定メニューが表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**4** |◀◀/▶▶|を押して**サンプリングレート/ビットレート**を設定する

設定できるサンプリングレート / ビットレートは、次の 7 タイプです。

**WAV**：[**8000Hz**/**11025Hz**/**16000Hz**/**22050Hz**]
**MP3**：[**96kbps**/**112kbps**/**128kbps**]

**5** Ⓜを**短く押す**

設定が確定し、メニュー画面に戻ります

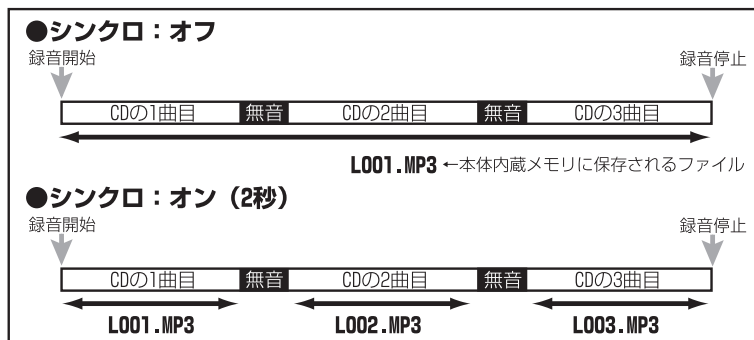
- 録音方法については、**「FMラジオを録音しよう～ FM 録音」(P.52)** をご覧ください。

# 曲ごとにファイルを分割して録音しよう（シンクロ）

シンクロは、外部入力（ライン）録音時（P.43）に無音部分で自動的に録音の開始 / 停止を行い、曲ごとにオーディオファイル（曲）を分割保存する機能です。

通常の録音方法では、録音開始から録音停止までが 1 曲(ひとつのオーディオファイル）として本体内蔵メモリに保存されます。

シンクロ機能を使った場合は、音楽 CD などのように曲間に 2 秒以上の無音部分で自動的に録音の開始 / 停止を行うため、一度の録音作業で、自動的に曲ごとにオーディオファイルを分割して保存することが可能です。

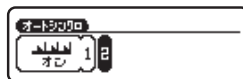
**例：音楽 CD を外部入力（ライン）録音する場合**

**注意**

- シンクロ機能の設定は、外部入力（ライン）録音時（P. 43）の場合のみ有効です。**ボイス / FM 録音時には動作しません。**

準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

**操作手順： 2 3**

1 「外部入力（ライン）録音の場合」（P.69）の**手順 1 から 6 までの操作**を行う

2 ⏮/⏭を押して［**オン**］または［**オフ**］を選ぶ

3 (M)を**短く押す**

設定が確定し、設定メニュー一覧に戻ります。

● 録音方法については、「オーディオ機器と接続して録音しよう ～外部入力（ライン）録音」（P. 43）をご覧ください。

**注意**

● シンクロ機能は、外部入力ジャックから入力されるオーディオ信号レベルを検知して自動的にオーディオファイルを分割して保存します。そのため、録音する曲の種類やレベルによって正しく動作しない場合があります。録り直しのきかない録音の場合、必ず事前に試し録音をしてください。

● 無音検出の基準時間は 2 秒に固定されています。時間を変更することはできません。

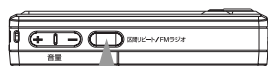
準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

# FM ラジオの放送局を手動でチャンネル登録しよう（手動チャンネル登録）

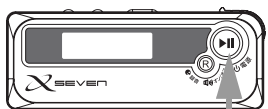
内蔵 FM チューナーは、オートスキャン（自動選局）（P.49）で放送局（周波数）をチャンネル番号に登録する以外に、手動でチャンネル番号に登録できます。

手動でチャンネル登録するには、次の 2 ステップの操作を行います。

**ステップ 1：手動で放送局（周波数）を設定する（P.73）**
**ステップ 2：放送局（周波数）をチャンネルに割り当てる（P.74）**

## ステップ 1：手動で放送局（周波数）を設定する

**操作手順：1**

**操作手順：2**

**操作手順：3, 5, 7　4, 6, 8**

**1** メイン画面（音楽再生モード）で **[FM ラジオ] ボタン**を**数秒間押したまま**にし、FM ラジオ画面にする（P.48）。

ch01 PRESET STEREO
80 . 0 MHz

**2** ⏯を**短く押して**、手動設定モード（マニュアルモード）にする

画面の [PRESET] マークとチャンネル番号表示が消えます。

ch01 STEREO
80 . 0 MHz

**⏯を押すごとに [PRESET] アイコンの表示 / 非表示が切り替わります。**

**3** ⏮/⏭を押して放送局（周波数）を設定する

76.0MHz ～ 108.0MHz までの範囲を 0.1MHz 単位で設定できます。

次のステップへ

準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

## ステップ 2：放送局（周波数）をチャンネルに割り当てる

**4** FM ラジオ画面でⓂを**短く押して** FM メニュー画面にする

**5** ▶▶|を 2 回押して [**3：CH トウロク** ] を選ぶ

**6** Ⓜを**短く押す**

保存（プリセット）されているチャンネル番号と周波数の一覧が表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**7** |◀◀/▶▶|を押して、設定した周波数を割り当てるチャンネル番号を選択する

設定できるチャンネル番号は 01 ～ 20 までです。

**8** Ⓜを**短く押す**

周波数が保存され、FM ラジオモードに戻ります。
プリセットモードとなり、手順 7 で選択したチャンネル番号が選択されます。

**注意**

- 手順 7 で選んだチャンネル番号に、すでに別の放送局（周波数）が登録されている場合は、登録内容は消去されて手順 3 で設定した放送局（周波数）が新たに登録されます。オートスキャン（自動選局）後などに手動でチャンネル番号を登録する場合はご注意ください。
- 手動でチャンネル登録を行った後、オートスキャン（自動選局）を行うと、手動でチャンネル登録した内容は全て上書きされます。

**ワンポイント**

- 本製品はイヤホンアンテナ方式によって電波を受信します。FM ラジオを聴くときは、必ずインナーイヤホンをイヤホンジャックに接続してください。
- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に残量のある電池をお使いください。

# 画面表示の消灯時間を設定しよう（ディスプレイ）

一定時間何も操作されなかったときに、画面表示（ディスプレイ）をオフにすると、電池の消費を少なくし、電池を長持ちさせることができます。スクリーンセーバーをオンに設定している場合は、ここで設定した時間でスクリーンセーバーが起動します（P.76）。

**操作手順：** **2, 4**-1**, 5**　**1, 3, 4**-2**, 6**

**1** メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**2** ▶▶|を 5 回押して [**6：セッテイ** ] を選ぶ

**3** Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

**4** ▶▶|を 6 回押して［**7：ディスプレイ**］を選び、Ⓜを**短く押す**

ディスプレイ設定メニューが表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**5** |◀◀/▶▶|を押して**設定時間**を選ぶ

設定できる時間は、次の 4 種類です。

［**ジョウジオン**］：

常時、画面表示をします。

［**5 ビョウ**（秒）/**10 ビョウ**（秒）/**20 ビョウ**（秒)］：

画面表示が消灯するまでの時間を設定します。

**6** Ⓜを**短く押す**

設定が確定し、設定メニュー一覧に戻ります。

準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

# スクリーンセーバーを設定しよう

一定時間何も操作されなかったときに、画面にアニメーションを表示させることができます（スクリーンセーバー）。スクリーンセーバーは、ディスプレイ消灯メニューで設定時間となります（P.75）。

**操作手順：** **2, 4**-1**, 5** **1, 3, 4**-2**, 6**

**1** メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**2** ▶▶|を 5 回押して [**6：セッテイ**] を選ぶ

**3** Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

**4** ▶▶|を 7 回押して [**8:スクリーンセーバー**] を選び、Ⓜを**短く押す**

スクリーンセーバー設定メニューが表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**5** |◀◀/▶▶|を押して [**オン**] または [**オフ**] を選ぶ

**6** Ⓜを**短く押す**

**[ オン ] を選んだ場合：**

|◀◀/▶▶|を動かしてアニメーションのタイプを選びます。

Ⓜを**短く押す**と、タイプを確定して設定メニュー一覧に戻ります。

**[ オフ ] を選んだ場合：**

設定メニュー一覧に戻ります。

# 表示言語を設定しよう 1 ～メニュー言語

メニュー項目などディスプレイに表示する言語を設定します。
通常は［日本語］を選択してください。

**操作手順： 2, 4**-1**, 5 1, 3, 4**-2**, 6**

**1** メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**2** ▶▶|を５回押して [**6：セッテイ**] を選ぶ

**3** Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

**4** ▶▶|を８回押して[**9:メニューゲンゴ**]を選び、Ⓜを**短く押す**

メニューランゲージ設定メニューが表示されます。

● Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**5** |◀◀/▶▶|を押して [ **ニホンゴ（日本語）**] を選ぶ

**6** Ⓜを**短く押す**

● 設定が確定し、設定メニュー一覧に戻ります。

# 表示言語を設定しよう 2 ～ ID3 言語 ( タグ )

曲（オーディオファイル）が持っている ID3 情報（曲名やアーティスト名など）をディスプレイに表示する言語を設定します（P.96)。

通常は［日本語］を選択してください。

**操作手順：　2, 4**-1**, 5　1, 3, 4**-2**, 6**

**1**　メイン画面（音楽再生モード）でⓂを**短く押して**メニュー画面にする

**2**　▶▶|を 5 回押して [**6：セッテイ** ] を選ぶ

**3**　Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

**4**　▶▶|を 9 回押して［**10：ID3 ゲンゴ**］を選び、Ⓜを**短く押す**

ID3 タグ設定メニューが表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いと**メイン画面（音楽再生モード）**に戻ります。

**5**　|◀◀/▶▶|を押して [ **ニホンゴ (日本語)** ] を選ぶ

**6**　Ⓜを**短く押す**

- 設定が確定し、設定メニュー一覧に戻ります。

# 本体の詳細を確認しよう（システム）

本製品のファームウェア（システムプログラム）のバージョンと、本体内蔵メモリの容量を確認できます。SD カード装着時には、SD カードの容量も表示されます。

**操作手順：　2　1, 3, 4**

**1** メイン画面（音楽再生モード）で(M)を**短く押して**メニュー画面にする

**2** ▶▶|を 7 回押して [**8：システム** ] を選ぶ

**3** (M)を**短く押す**

About Menu
Firmware Ver : 1.000
Int.Memory : 512MB
Ext.Memory : 0MB

本製品の情報が表示されます。

**Firmware：**ファームウェアのバージョン

**Int.Memory：**内蔵メモリの容量

**Ext.Memory：**SD カードの容量
※ SD カードを使用していない場合は、0MB と表示されます。

**4** (M)を**短く押す**

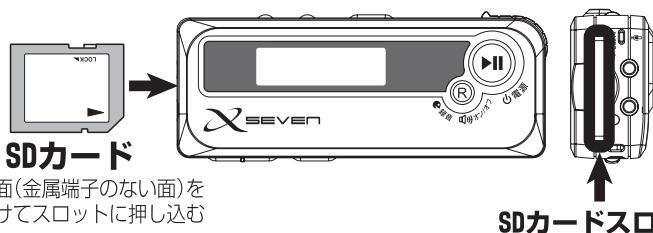
メニュー一覧に戻ります。

# SD カード（別売り）を使おう

SD カードスロットに SD カードを装着すると、より多くの曲の保存が行えるほか、デジタルカメラの画像データの保存など、大容量モバイルメモリとしても活用できます。また、本体を SD カードリーダーとして使用することもできます。

本体にコピーしたデータは、パソコンと USB 接続してパソコンに転送できます。本製品は、SD カードは、16MB ～ 512MB のものまでに対応しています。

**注意**

- **SD カードの装着・取り外しを行う場合は、必ず電源がオフの状態で行ってください。**電源オンの状態で SD カードの装着･取り外しを行うと、カードおよび本体が破損する恐れがあります。
- 本製品で SD カードを使用する場合に、はじめに Windows パソコンで SD カードのフォーマットが必要な場合があります。

1 SD カードを装着する

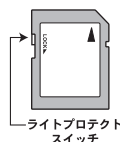
SD カードには表裏の向きがあります。図を参考にして向きに注意し、**「カチッ」っと音がするまで**、しっかりと押し込んで装着します。

- **SD カードには挿入方向があるので、装着時には注意してください。無理に装着しようとすると SD カードが破損する場合があります。**

2 SD カードを取り外す

SD カードを**軽く押し込む**と、「カチッ」と音がして SD カードが飛び出します。

**注意**

- SD カードを取り扱う際は、金属に触れてから利用するなどして静電気等の電気から保護してください。詳しくは、各製品の取扱説明書をご覧ください。
- miniSD カードを利用する場合には、miniSD アダプタを併用してください。
- XS701 で扱えるファイル数・フォルダー数の上限は 400 です。
- SD カードには「ライトプロテクトスイッチ」がついています。下にスライドするとロック状態となり、カードへの書き込み / 消去が禁止され、保存されている曲（オーディオファイル）などのデータが保護されます。書き込み / 消去する場合は、ロック状態を解除してください。

## SD カードのフォーマットの手順（Windows）

**1** 電源をオフにした状態で、本製品に SD カードを装着する

**2** 本製品とパソコンをUSB接続し、SDカードをパソコンに認識させる(P.87)

**3** Windows の [ スタート ] メニューから [ マイコンピュータ ] を開く

**4** 認識された [SD メモリカード ] のアイコンを右クリックする

**5** [ フォーマット ] の項目を選択し、フォーマットを実行する

**注意**

- **フォーマット形式は [FAT] を選択してください**(ファイルシステムの項目で選択します)。
- [FAT32]形式でフォーマットを行うと、本製品が正常に動作しなくなります。
- **Macintosh 等では、本製品のフォーマットを行わないでください。** Macintosh等でフォーマットを行うと、本製品の電源が入らなくなります。
- **フォーマットを実行すると、その時点で保存されているすべてのファイルが消失します。あらかじめ、充分にご確認のうえ、フォーマットを実行してください。**

# 付属 CD-ROM（専用ファームウェアアップデート プログラム）について

本製品は、付属 CD-ROM に収録されている『**専用ファームウェアアップデートプログラム**』を利用することで、ファームウェア（システムプログラム）のアップデート（更新）が可能です。

製品ご購入後に、機能の改善や改良が行われた場合、弊社ホームページ（P.117）にてアップデートの情報を公開いたします。そこで紹介する手順（専用ファームウェアアップデートプログラムのパソコンへのインストール方法、およびアップデートの方法、注意点）をご確認いただき、ファームウェアをアップデートすることで、最新の機能をご利用いただくことができます。

**注意**

- **通常は、専用フェームウェアプログラムのパソコンへのインストール、およびアップデートを行う必要はございません。**

# パソコンを活用しよう（活用編）

この章では、パソコンを利用した XS701 の活用方法やパソコンとの接続のしかた／取り外しかたなどについて説明しています。本製品とパソコンを USB 接続することで、いろいろな曲（オーディオファイル）を本製品に転送して音楽を楽しむことができます。

**パソコンでの操作について**

本取扱説明書では､パソコンの操作方法についても一部紹介をしておりますが、**パソコン本体、OS、その他アプリケーションの操作については､ご利用されている製品の取扱説明書をご覧ください。**不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

# お気に入りの CD を X-Seven で楽しもう

Windows に標準で用意されているアプリケーション[**Windows Media Player**] を使って、お気に入りの音楽 CD をパソコンに録音できます。録音した曲は本体内蔵メモリに転送することで、お気に入りの音楽を XS701 で手軽に楽しめます。

音楽 CD の曲を本体に転送するには、次の 3 ステップの操作を行います。

**ステップ 1：音楽 CD をパソコンに録音する（P.85）**

**ステップ 2：本体をパソコンに接続する（P.87）**

**ステップ 3：曲をパソコンから本体に転送する（P.89）**

**ステップ 4：パソコンからの取り外しかた（P.93）**

各録音方法の詳細は、それぞれの参照ページをご覧ください。

**用語**

- **Windows Media Player とは**、Windows に標準装備されているマルチメディアコンテンツ再生ソフトウェアで、音声や動画の再生が楽しめます。Microsoft 社が無償で配布しており、最新はバージョン 10 です（2006 年 7 月現在 / ただしバージョン 10 は Windows XP のみで使用可能）。
- 本書では、Windows Media Player を使って音楽 CD の曲を「**WMA ファイルとしてパソコンに取り込む**」ことを「**録音する**」と表記しています。

**注意**

- Windows Media Player はバージョン 9 以降をご使用ください。本書はバージョン 10 の画面で説明しています。バージョン 9 をお使いの方は、手順説明内のバージョン 9 用表記をご参考ください。
- Windows Media Player の詳細な使い方は、同アプリケーションの［ヘルプ］をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

**ワンポイント**

- Windows Media Player で初めて音楽を取り込むときは、「録音した音楽にコピー防止を追加する / しない」の選択など、いくつかのオプションが表示されます。表示される画面の説明をよくお読みになり、各オプションの設定を行ってください。

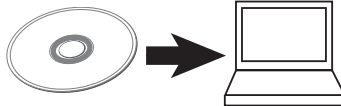
## ステップ 1：音楽 CD をパソコンに録音する

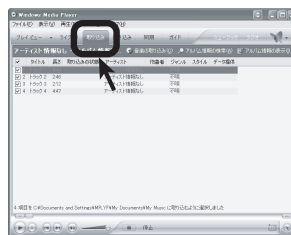
ここでは、Windows Media Player を使って、音楽 CD をパソコンに録音する方法を簡単に説明します。

### ❶ Windows Media Player を起動する

Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Windows Media Player］を選択します。

### ❷ 音楽CDをパソコンのドライブに入れる

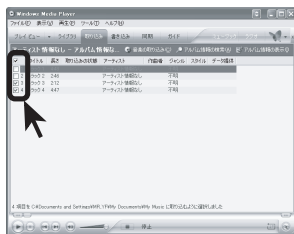
● パソコンの設定により音楽CDが自動再生される場合は、停止ボタンで停止してください。

### ❸ ［**取り込み**］タブをクリックして、音楽 CD 収録曲一覧を表示する。

● バージョン9では[CDから録音]をクリックします。

・

次のページへ

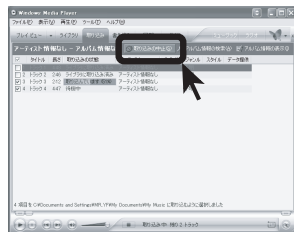
## 4

### 取り込みたい曲のチェックボックスをオンにする

- 自動的にすべての曲が選択された状態（チェックボックスがオンの状態）になります。最上段（1 曲目の上）にあるチェックボックスをクリックし、すべての曲の選択を解除（オフの状態）してから、取り込みたい曲を選択（チェックボックスをオン）してください。
- すべての曲を取り込みたい場合は、すべての曲が選択された状態のまま、手順 5 に進んでください。

## 5

### ［**音楽の取り込み**］をクリックする

取り込みが始まります。選択したすべての曲のリストに［取り込み済み］と表示されたら取り込み完了です。

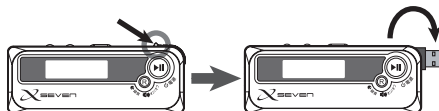
- バージョン 9 では［音楽の録音］をクリックします。［ライブラリに録音済み］と表示されたら取り込み完了です。
- 取り込んだオーディオファイルは、初期設定では［マイドキュメント］の［マイミュージック（My Music）］にアーティストまたはグループ名のサブフォルダーが自動作成され、その中に保存されます。これらはタスクバーの［メディアライブラリ］をクリックすると表示されます。音楽ファイルの保存先フォルダーは、［ツール］メニューの［オプション］で変更できます（インターネットに接続されていない場合は「不明なアーティスト」、「不明なアルバム」などになります）。
- 音楽 CD をパソコンのドライブに入れたとき、右の図のような画面が表示された場合は、［CD から音楽を取り込みます /Windows Media Player 使用］をマウスで選ぶと、自動的に音楽の取り込みが開始されます。この場合、音楽 CD の全曲が取り込まれます。

## ステップ 2：本体をパソコンに接続する

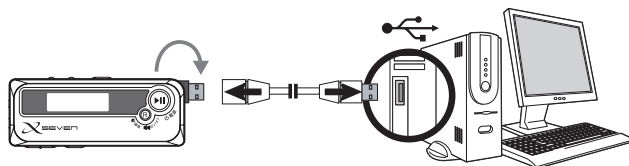
パソコンに録音した曲は、Windows Media Player（P.84）を経由して本体内蔵メモリに転送し、再生することができます。

ここでは、本体とパソコンとの接続のしかたについて説明します。

**注意**

- 本製品は USB マスストレージクラス対応（P.96）のため、Windows Me/2000/XP で初めてお使いになるときには、パソコンに接続すると自動的に認識され、ドライバソフトウェアがインストールされます。
- Windows 2000 をお使いの場合は、サービスパック（SP2 以降）がインストールされていることが必要です。

### 1 本体の USB コネクタ部を回転させる

### 2 パソコンの USB ポートと接続する

USB 端子には向きがありますのでご注意ください。なお、接続の際は、付属の USB 延長ケーブルを使うと便利です。

- しっかりと奥まで挿し込んでください。
- 本体電源オフ時にパソコンと接続すると、自動的に電源がオンとなります。

次のページへ

3

## パソコンとの接続を確認する

パソコンが本体を認識するとハードウェアの追加画面が表示され、Windows 画面右下にあるタスクトレイにアイコンが表示されます。

本体ディスプレイに USB 接続中を表す画面が表示されます。

- パソコンと USB 接続をしている間は、本体の操作はできません。
- パソコンが本体を正常に認識していない場合は、本体を一度パソコンから取り外し、接続をやり直してください。

**パソコンの [ マイコンピュータ ] で接続を確認する**

本体内蔵メモリと SD カード（使用時のみ）は、[ マイコンピュータ ] ではふたつの [ **リムーバブルディスク** ] として表示されます。

**注意**

- 詳細については、ご利用されているパソコン、OS の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。
- ドライブ名（F: や G: の表記）は、お使いのパソコンの環境（ハードディスクの状態や外付け周辺機器の状態）により自動的に割り当てられます。

次のステップへ

## ステップ 3：曲をパソコンから本体に転送する

本体とパソコンを接続できたら、パソコンに録音した曲を Windows Media Player を使って、本体内蔵メモリに転送します。

ここでは、ファイルの転送のしかたについて簡単に説明します。

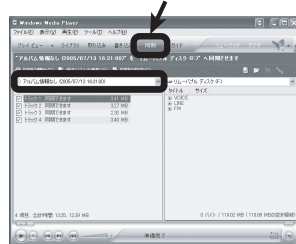
### Windows Media Player を起動する

Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Windows Media Player］を選択します。

- Windows Media Player を起動すると [ デバイスの設定 ] ウィンドウが表示されることがあります。この場合には [ 手動 ] にチェックを入れ、[ 完了 ] をクリックしてください。[ 自動 ] に設定すると、曲の転送がすべて自動で行われ、任意の曲をのみを転送することができなくなりますので、ご注意ください。

### ［**同期**］タブをクリックし、転送したい再生リストを選ぶ

ウィンドウ左の［再生リスト］のドロップダウンリストで、転送する再生リスト ( パソコンに録音した音楽 CD のタイトル) を選び、録音曲の一覧を表示します。

- バージョン 9 では、[デバイスへ転送] をクリックして、[ 転送する項目ウィンドウ ] のドロップダウンリストで、転送する再生リスト、区分、または項目を選びます。
- [すべての音楽] を選ぶと、パソコンに取り込まれているすべてのオーディオファイルを表示できます。

次のページへ

## 3

### 本体に転送したい曲のチェックボックスをオンにする

自動的にすべての曲にチェックが入りますので、転送しない曲はチェックをオフにします。

## 4

### 本体内蔵メモリ[リムーバブルディスク]を転送先に選ぶ

ウィンドウ右に本体内蔵メモリに保存されているファイル/フォルダーの一覧が表示されます。

● **バージョン 9 では、[デバイス上の項目] ウィンドウのドロップダウンリストで、本体を選びます。**

## 5

### ［**同期の開始**］をクリックして転送する

曲の転送が始まります。[デバイスへ同期済み] と表示されたら転送完了です。

● **バージョン 9 では [転送] をクリックします。[完了] と表示されたら転送完了です。**

**注意**

- 曲（オーディオファイル）が持っている DRM（デジタル著作権管理）情報の内容によっては、本体に転送ができなかったり、転送しても再生できないことがあります。
- 著作権保護機能については、「DRM（Digital Rights Management：デジタル著作権管理機能）」（P.95）をご覧ください。
- 本体内蔵メモリに既に保存されているファイルと同じファイル名の曲を転送すると、既存ファイルは上書きされます。
- 曲の転送中は、本体をパソコンから取り外さないでください。

**ワンポイント**

- Windows Media Player を使ってファイルを本体に転送した際に、自動的に [WMPInfo.xml] というファイルが本体メモリに作成されますが、操作上の問題はありません。
- 本製品は USB2.0 HI-SPEED に対応していますが、USB1.1 対応ポートに接続した場合は、USB1.1 FULL SPEED での接続となります。

次のステップへ

## エクスプローラを利用したファイルのコピー

本体は、Windows Media Player を利用した曲の転送のほかにも、エクスプローラを使用して、曲（オーディオファイル）を複製（コピー）することができます。

エクスプローラを使うと、以下のことができます。

- 曲だけでなく、デジタルカメラなどで撮影した画像ファイルやテキストファイルなどの各種ファイルもコピーすることができ、本体を手軽に持ち運べるモバイルメモリとして活用することができます。
- 本体で録音した曲をパソコンのハードディスクにコピーして、貴重な録音をパソコンで保存（バックアップ）することができます。
- 本体内蔵メモリに、自由にフォルダーを作ることができます。
- 本体内蔵メモリに保存されているファイル / フォルダーを削除できます。

**エクスプローラを使ったファイル操作については、ご利用されているパソコン、OS の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。**

**注意**

- Windows のエクスプローラで曲（オーディオファイル）を本体内蔵メモリに転送すると、以下の場合は本体で曲を再生できません (P. 95)。
  1：ダウンロード購入した DRM 情報が有効なオーディオファイルの場合
  2：音楽 CD からパソコンに録音したときに著作権保護機能が働いたとき
  このような場合は、Windows Media Player の [同期] を利用してオーディオファイルを転送してください。
- 著作権保護機能については、「DRM (Digital Rights Management：デジタル著作権管理機能)」(P. 95) をご覧ください。
- 音楽CDを入れたパソコンのCD/DVDドライブから曲(オーディオファイル) を本体内蔵メモリに直接コピーしても、本体では再生できません。必ず一度 Windows Media Player を使って音楽 CD をパソコンに録音してから、本体内蔵メモリに曲を転送してください。

## ステップ 4：パソコンからの取り外しかた

パソコンの電源が入っている状態で、本体をパソコンから取り外すときは、以下の手順で取り外してください。パソコンの電源が切れているときは、以下の手順は不要です。

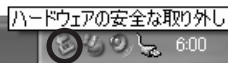
ここでは、パソコンからの取り外しかたを説明します。

**注意**

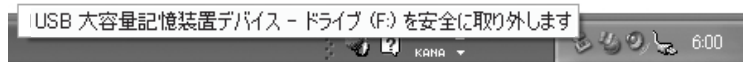
- 以下の手順をふまずに本体をパソコンから取り外すと、本体およびパソコンに不具合が発生したり、曲の転送が不完全となる場合があります。特にファイル転送中などに強制的に取り外すとファイルの損失や故障の原因となります。必ず、以下の手順で取り外してください。

### 1

Windows 画面右下にあるタスクトレイの［**ハードウェアの安全な取り外し**］アイコンをクリックする

ハードウェアの安全な取り外し
6:00

パソコンに USB 接続されている機器の一覧が表示されます。

### 2

本体を表す [**USB 大容量記憶装置デバイス**] を選ぶ

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (F:) を安全に取り外します
KANA
6:00

次のページへ

準備
再生／録音
FMラジオ
応用編
PC活用編
困った時は
付録／索引

準備
再生／録音
ＦＭラジオ
応用編
ＰＣ活用編
困った時は
付録／索引

## 3

[ **ハードウェアの取り外し** ] が表示されたら、本体をパソコンから取り外す

**ワンポイント**

- [ ハードウェアの安全な取り外し ] ウィンドウが表示されたときは、本体（USB 大記憶装置デバイス）を選んで [ 停止 ] をクリックします。[ ハードウェアデバイスの停止 ] ウィンドウが表示されたら [OK] をクリックします。
- [ デバイス ' 汎用ボリューム ' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。] とエラーメッセージが表示されたら、しばらく時間をおいてから、再度手順 1 の操作を行ってください。

# 用語集

**ファイル形式**

オーディオファイルには、データの形式によっていくつかの種類があり、ファイル形式として分類されます。ここでは、本製品で再生できる WMA/MP3/WAV（※注）について説明します。

● WMA（Windows Media Audio）

Microsoft 社が開発した音声圧縮フォーマットです。Windows に標準装備されている Windows Media Player で音楽 CD を WMA ファイルにできます。

● MP3（MPEG Audio Layer-3）

オーディオ CD 並みの音質で、データ量を約 10 分の 1 に圧縮できる音声圧縮フォーマットです。

● WAV（Windows Wave）

Windows で標準的に使われている音声ファイルフォーマットです。データが圧縮されないので高音質ですが、データ量は大きくなります。

※注：本製品では、本製品で録音した WAV ファイルのみ再生に対応しています。

**DRM（Digital Rights Management：デジタル著作権管理機能）**

デジタルデータの著作権を保護する技術で、音楽配信サイトなどからダウンロード購入した WMA などのオーディオファイルは、DRM 情報が含まれています。

通常、DRM で保護されているオーディオファイルはダウンロードしたパソコンでのみ再生でき、他のパソコンやプレーヤーにコピーや転送をしても再生できませんが、本製品は WMA ファイルの DRM に正規に対応しており、Windows Media Player を使ってファイルを転送した場合に限り、オーディオファイルを再生できます。

**ワンポイント**

● DRM 情報に「ポータブルプレーヤーへの転送不可情報」や、「転送可能回数制限」などが含まれているときは、ファイルの転送や再生ができない場合もあります。このように、本製品は必ずしもすべての WMA ファイルの再生を保証するものではありません。

● Windows Media Player 以外の方法（エクスプローラを使ったファイルコピーなど）でファイルを転送すると、再生制限がかかり本製品では再生できません。ファイルの転送には Windows Media Player をお使いください。

**ID3 タグ**

オーディオファイルに、曲名 / アーティスト名 / アルバム名 / ジャンルなどの情報を加えて、再生時にプレーヤ上に表示するための規格です。ID3 バージョン 2 からは、歌詞などの情報もオーディオファイルに持たせることができます。

● 本製品では、曲名情報を持っている場合に ID3 タグを認識して表示することができます。

**Windows Media Player**

Windows に標準装備されているマルチメディアコンテンツ再生ソフトウェアで、音声や動画の再生が楽しめます。Microsoft 社が無償で配布しており、最新はバージョン 10 です。

● 2006 年 7 月現在 / ただしバージョン 10 は Windows XP のみで使用可能。

**USB マスストレージクラス**

USB ポートにハードディスクなどの外部記憶装置を接続するための規格です。この規格に対応した機器は、パソコンとの間でデータ（ファイル）のバックアップ / コピーが可能となるだけでなく、エクスプローラなどのアプリケーションを利用してデータを読み出せます。また、USB マスストレージクラス対応機器を Windows Me/2000/XP ではじめて使う場合に、パソコンに USB 接続するだけで自動的に認識され、ドライバーソフトウェアがインストールされます。

Windows 2000 をお使いの場合は、サービスパック（SP2 以降）がインストールされていることが必要です。

**SD カード**

小型メモリーカードの一種で、音楽のオンライン配信に適した著作権保護機能「CPRM」を内蔵しているため携帯音楽機器の記憶装置として利用されています。そのほか、デジタルカメラや携帯電話でも利用できます。誤消去を防ぐプロテクトスイッチも装備されています。本製品では、16MB ～ 512MB の製品が使用できます。

● 本製品は、CPRM には対応しておりません。

# 使用上のヒントとトラブルシューティング

## 故障かな！？と思ったらまずお読みください

この章では、本製品を使いこなすためのヒントと、陥りやすいトラブルとその原因、対処方法について説明しています。弊社サポートセンターにお問い合わせいただく前に、一度本章の内容をご確認ください。

**「使用上のヒント集～このような時には」(P.98)**
**「困ったときには(メイン画面～音楽再生モード)」(P.100)**
**「困ったときには(録音)」(P.102)**
**「困ったときには(FM ラジオ画面)」(P.103)**
**「困ったときには(全体的な操作)」(P.104)**
**「その他のよくあるお問い合わせ」(P.106)**

**パソコンでの操作について**

本取扱説明書では、パソコンの操作方法についても一部紹介をしておりますが、**パソコン本体、OS、その他アプリケーションの操作については、ご利用されている製品の取扱説明書をご覧ください。**不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

# 使用上のヒント集〜このような時には

## ●音楽再生編

**再生する曲順を並べ替えたい**

本体で曲を再生するときの曲順は、オーディオファイルの名前順（半角数字→半角アルファベット→全角数字→全角アルファベット→全角日本語 / 五十音）となります。また、内蔵メモリにフォルダーを作った場合は、「ルート ( 内蔵メモリの最上位階層）に保存されているファイル」→「フォルダーに保存されているファイル」の順で再生されます。

音楽 CD をパソコンに WMA 形式で録音し、それを本体に転送するときは、ファイル名の先頭に数字（01**、02**、03**、…など）をつけると音楽 CD と同じ曲順を設定できます（多くの音楽 CD では、Windows Media Player でパソコンに録音すると、自動的にファイル名の先頭に番号が記録されます）。

希望の曲順で音楽を再生したいときは、音楽 CD ごとにフォルダーを作成し、フォルダー名の先頭に数字（01**、02**、03**、…など）をつけると、音楽の再生順を自由に設定できます。

**ポケットや鞄などに入れている時の誤動作を防ぎたい**

ロック機能を使うと、気付かないうちにボタンが誤って押されるといった誤動作を防げます（P.32）。

## ●録音編

**曲ごとに分割して録音したい**

本体で録音すると、録音を停止したところまでがひとつの曲（オーディオファイル）として保存されます。「1 曲 1 ファイル」として保存したい場合は、再生する曲ごとに録音 / 停止の作業を繰り返してください。

CD や MD プレーヤーなどを本体の外部入力ジャックに接続して外部入力（ライン）録音する場合には、シンクロ機能（P.71）を使うと、CD などの再生側の曲間（無音部分）を検知して、自動的に曲ごとにオーディオファイルを分割でき便利です。シンクロ機能の詳細については「曲ごとにファイルを分割して録音しよう（シンクロ）」（P.71）をご覧ください。

**外部マイクを使って録音したい**

外部マイクを直接本体に接続することはできません。ただし、外部マイクを一度オーディオ機器などに接続していただき、そのオーディオ機器の出力を付属のダイレクトレコーディングケーブルを使って本体外部入力ジャックに接続して外部入力（ライン）録音を行うことは可能です。

**テレビやビデオの音を録音したい**

イヤホンを接続できるテレビやビデオデッキであれば、テレビ / ビデオデッキのイヤホンジャックと本体外部入力ジャックを付属のダイレクトレコーディングケーブルで接続することで、外部入力（ライン）録音が可能です。ダイレクトレコーディングケーブルを接続する場所を間違えないようにご注意ください。

**できるだけ長時間録音したい / 録音ファイルのサイズを小さくしたい**

メモリ残量が同じ場合、録音品質（サンプリングレート / ビットレート）を低くした方が長く録音できます。また、一定の時間を録音する場合は、同様に録音品質（サンプリングレート / ビットレート）が低い方が録音したオーディオファイルのサイズを小さくすることができます。録音する内容や目的に応じて、最適な録音品質を選んでください。録音品質の設定のしかたの詳細は「録音時の品質を設定しよう（録音設定)」(P.67）をご覧ください。

## ●その他の機能

**大切な録音内容を保存したい**

本体をパソコンと USB 接続し（P.87)、エクスプローラなどで本体を開くと、本体内蔵メモリに保存されているオーディオファイル一覧を見ることができます。この中から保存しておきたいファイルを選び、パソコンのハードディスクに複製（コピー）&貼り付け（ペースト）すれば、録音内容をバックアップ（複製保存）することができます。バックアップしたオーディオファイルは、Windows Media Player で再生できます。確実にファイルを保存したい場合は、バックアップ後に、さらに CD-R などに書き込むことをお薦めします。

パソコンへのバックアップの手順や CD-R への書き込み方法については、ご利用されている製品の取扱説明書をご覧ください。

**メモリを増設したい**

SD カードスロットに SD カードを装着すると､より多くの曲の再生が楽しめるほか、オーディオファイル以外のデジタルカメラの画像データの保存など、大容量モバイルメモリとしても活用できます。また、本体を SD カードリーダーとして使用することも可能です。本体内蔵メモリに保存したデータは、パソコンと USB 接続すればパソコンに転送できます。なお本製品は、SD カードは、16MB ～ 512MB のものまでに対応しています。

**自動的に電源をオフにしたい / 電池を節約して上手に使いたい**

曲の再生中と録音中、FM ラジオの受信中を除いて、一定時間何も操作しなかったときに自動的に電源を切る［オートオフ］機能をメニュー操作で設定できます。設定のしかたは「自動電源オフ時間を設定しよう（オートオフ）」(P.66）をご覧ください。また、曲の再生中や FM ラジオの受信中にも画面表示（ディスプレイ）を消灯して電池の消費を抑えることができます。設定のしかたは「画面表示の消灯時間を設定しよう（ディスプレイ)」(P.75）をご覧ください。

# 困ったときには（メイン画面〜音楽再生モード）

**WMA 形式の曲（オーディオファイル）が再生できない**

音楽 CD からパソコンに録音した曲（オーディオファイル）を Windows Media Player の［同期（バージョン 9 では［デバイスへの転送 ］）］を使わずに、Windows のエクスプローラなどで本体内蔵メモリに複製（コピー）すると、以下の場合は曲を再生できません。

1：ダウンロード購入したDRM情報（P.95）が有効なオーディオファイルの場合

2：音楽 CD からパソコンに録音したときに著作権保護機能が働いたとき

2 の場合は、Windows Media Player の［ツール］－［オプション］の［音楽の取り込み（バージョン 9 では [ 音楽の録音 ]）］タブで［取り込んだ音楽を保護する（バージョン 9 では [ 保護された音楽を録音する ]）］チェックボックスをオフにして音楽 CD から録音することで、再生が可能となります。

しかし、いずれの場合もファイルの転送は Windows Media Player をお使いください。

また、ビットレートが 48 〜 192kbps の範囲を超えた WMA 形式のオーディオファイルは、本製品では再生できません。

**MP3 形式の曲（オーディオファイル）が再生できない**

本製品は、ビットレートが 32 〜 320kbps の範囲を超えた MP3 ファイルは再生できません。

**WAV 形式の曲（オーディオファイル）が再生できない**

本製品では、本製品で録音（ボイス / FM 録音）した WAV ファイルのみ再生に対応しています。

**ボイス録音した曲（オーディオファイル）が選択できない**

ボイス録音したファイルは、メイン画面（音楽再生モード）では選択できません。ボイスメモモードにして、再生してください。モードの切り替えかたは「モードについて」（P.56）をご覧ください。

**曲を再生しようとすると電源が切れてしまう**

⏯を長く押し続けると電源が切れます。曲を再生する場合は、⏯を短く押してください（P.25）。

**区間リピート再生の設定をしようとすると FM ラジオの画面になってしまう**

[ 区間リピート (FM ラジオ )] ボタンを長く押し続けると、FM ラジオモードに切り替わります。区間リピート再生の区間を設定する場合は、[ 区間リピート (FM ラジオ )] ボタンを短く押してください（P.30）。

**再生中の曲を頭出し再生しようとすると、ひとつ前の曲が再生されてしまう**

再生が始まって 5 秒以内に⏮を短く押すと、ひとつ前の曲の頭出し再生が始まります。現在再生中の曲を頭出し再生したい場合は、再生が始まって 6 秒以上経過した後に⏮を短く押してください。

**内蔵スピーカーのオン / オフ設定が保存されない**

内蔵スピーカーのオン / オフ設定は、メニュー操作（P.59）のほか、Ⓡを短く押すことでも切り替えられます。オンまたはオフに設定していても、気づかないうちにⓇが短く押されてしまうと設定が切り替わってしまいますので、ご注意ください。

気付かないうちにボタンが誤って押されるといった誤動作を防ぐためには、ロック機能をご利用ください（P.32）。

**インナーイヤホンから音が聴こえない**

音量が小さく設定されていないか（P.27）、また、インナーイヤホンが正しくイヤホンジャックに接続されているか（間違って外部入力ジャックに接続されていないか）をご確認ください。

**いつのまにか電源が切れてしまう**

自動電源オフ時間（オートオフ）（P.66）を設定していると、音楽の再生、各種録音、FM ラジオ受信中以外の状態で一定時間何も操作しないと、自動的に電源が切れます。

なお、画面の消灯時間（ディスプレイ）（P.75）を設定している状況で、スクリーンセーバー（P.76）を「オフ」に設定した場合、何も操作しない状態で設定した消灯時間を経過すると、画面の表示が消えて電源が切れたように感じることがあります。この場合は、本体は正常に動作しており、何かボタンを押すことで、再び画面を点灯させることができます。

# 困ったときには（録音）

**録音できない**

以下の点をご確認ください

1: 外部入力（ライン）録音時は、外部オーディオ機器と正しく接続しているか（P.43）

2: メモリ残量が充分あるか

（メモリ残量がなくなると、ディスプレイに [ メモリがいっぱいです ] と表示され、録音が停止します。メモリ残量（空き容量）は、本体をパソコンとUSB 接続し、パソコンで [ マイコンピュータ ] － [ リムーバブルディスク（本体内蔵メモリ）] － [ プロパティ ] で確認できます。）

3: バッテリ残量が充分あるか

（電池の残量が少ないと、[バッテリ残量低下] と表示され、録音が停止します。録音時は、充分に残量のある電池をお使いください。）

**録音した音が悪い**

録音品質（サンプリングレート / ビットレート）を低い値に設定すると、長時間の録音が可能になりますが、録音した曲（オーディオファイル）のサウンドクオリティーは低くなります。録音する内容や目的に応じて、最適な録音品質を選んでください。詳細については「録音時の品質を設定しよう（録音設定）」（P.67）をご覧ください。

**いつのまにかボイス録音されてしまう**

Ⓡを長く押し続けると録音が開始されます。

ポケットなどに入れてご使用される場合、気づかないうちにⓇが押されて録音が開始してしまい、内蔵メモリの空き容量を使い切ってしまう場合があります。このような誤動作を防ぐためには、ロック機能をご利用ください（P.32）。

内蔵スピーカーのオン / オフ設定を行う場合は、Ⓡを短く押してください(P.29)。

**いつのまにか録音が停止してしまう**

電池の残量が少ないと、[バッテリ残量低下] と表示され、録音が停止します。録音時は、充分に残量のある電池をお使いください。

また、内蔵メモリの空き容量がなくなった場合は [ メモリがいっぱいです ] と表示され、録音が停止します。不要な曲や VOICE、FM ファイルを削除してください（P.36）。

**ボイス録音した音が異常に小さい**

内蔵マイクを向ける方向によって、録音される音の音量が変わります。本体内蔵マイクは、録音したい音源に向けて録音してください。

**録音した音が聴こえない**

本体で録音される音は、再生するオーディオ機器の音量により変化します。そのため、再生側の音量をゼロにしてしまうと録音ができません。

大切な録音を行う場合は、事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。また、録音中は音量を変化させないでください。

**外部オーディオ機器から録音した音が小さい**

外部入力（ライン）録音をする場合は、本体にインナーイヤホンを接続して、録音する音を聴きながら、外部オーディオ機器の再生音量を調節してください。その際、少し音量が大きいと感じる程度の音量設定を推奨します。

## 困ったときには（FM ラジオ画面）

**ラジオがきれいに聴こえない**

本体に搭載されているFMチューナーは、イヤホンジャックに接続したインナーイヤホンをアンテナとして FM ラジオ放送を受信します（イヤホンアンテナ方式）。そのため、イヤホンを接続していないときれいに受信できません。FM ラジオを聴いたり録音するときは、必ずイヤホンを接続してください。

**ラジオに雑音が多く混ざる**

電池の残量が少ないとノイズが発生しやすくなります。充分に残量のある電池をお使いください（P.24）。

# 困ったときには（全体的な操作）

**ボタンの操作がうまくできない**

各ボタンは、操作する時間によって操作内容が変わる場合があります。

本取扱説明書では、ボタンを瞬時に短く押したり動かす場合は「**短く押す**」、2秒以上押したままにする場合は「**数秒間押したまま**（**押し続ける**）」と表記しています。ボタンを操作する際には、操作する時間にご注意ください。

**途中で操作方法がわからなくなってしまった**

本取扱説明書で説明している手順通りに操作が進まず、元の状態に戻れなくなったら、一度(M)を押したままにしてメイン画面（音楽再生モード）に戻り、再度手順 1 から操作をやり直してください。

**ボタンが操作ができない**

ロック機能がオンになっていないかご確認ください（P.32）。

ロック機能がオフの状態で、なおかつ通常の操作できないなどの不具合が生じた場合は、バッテリーカバーを取り外し、電池を抜いて強制終了（リセット）してください。

リセット後、再び電池を取り付けて電源を入れ、正常に動作するかご確認ください。リセット後も動作に不具合がある場合は弊社サポートセンターにご相談ください（P.117）。なお、リセットを行っても、オーディオファイルなど本体内蔵メモリ に保存したファイルや各種の設定は消去されません。

**電源が入らない**

電池の残量が充分か、ご確認ください

**曲（オーディオファイル）/ FM ラジオの音が鳴らない**

以下の点をご確認ください。

- イヤホンが正しく接続されているか（P.18）
- ボリュームが最小になっていないか（P.27）
- 再生状態になっているか（停止状態になっていないか）（P.26）
- 再生しようとしている曲（オーディオファイル）がパソコンでも再生できるか

  ※パソコンでも再生できない場合は、ファイルが無音または壊れている可能性があります。

**メニュー操作中に勝手にメイン画面（音楽再生モード）に戻ってしまう**

メニュー画面で何も操作せずに一定時間（約 10 秒）が過ぎると、自動的にメイン画面（音楽再生モード）に戻ってしまいます。

**フォルダーの作り方がわからない / フォルダーの削除ができない**

本体の操作では、フォルダーの作成やフォルダーの削除は行えません。フォルダーの作成や削除は USB 接続したパソコンをご利用ください。パソコンの操作方法については、ご利用されている製品の取扱説明書をご覧ください。

なお、ファイルに関しては、本体操作のみで削除することができます。詳細については「不要な曲を削除しよう」（P.36）をご覧ください。

**パソコンと USB 接続すると本体の操作ができない**

パソコンと接続中は、本体の操作はできなくなります。パソコンから本体を取り外すときは、必ず「ステップ 4：パソコンからの取り外しかた」（P.93）の手順に従ってください。

**画面表示が日本語以外になってしまった**

ディスプレイに表示する言語を［日本語］に設定してください。設定のしかたは「表示言語を設定しよう 1 ～メニュー言語」（P.77）をご覧ください。

**パソコンに USB 接続しても認識されない**

一度パソコンから取り外し、再度パソコンと接続し直してください。パソコンとの接続のしかたについては、「ステップ2：本体をパソコンに接続する」（P.87）をご覧ください。

**パソコンから本体にファイルの転送ができない**

以下の点をご確認ください。

- ファイル名が長くないか

（長いファイル名を持つファイルは、ファイルサイズ以上にメモリを消費します。一度短いファイル名に変えてから転送してみてください。）

- メモリ残量が充分あるか

（本体をパソコンと USB 接続し、パソコンで [ マイコンピュータ ] − [ リムーバブルディスク（本体内蔵メモリ）] − [プロパティ] で空き容量を確認できます。）

**Windows Me でデバイスマネージャに緑色の×マークが表示される**

この表示は Windows Me 側の仕様です。動作に問題ありませんので、そのままお使いください。

# その他のよくあるお問い合わせ

## ■再生について

Q：イコライザはありますか？
A：ノーマル、ロック、ジャズ、クラシック、ポップ、ユーザーの中から選択することが可能です（P.61）。ユーザーでは、好みの音質に調整することができます。

Q：レジューム機能はありますか？
A：あります。電源を切っても、直前に停止した曲の先頭から再び再生することができます（P.28）。

Q：曲が再生されません。(WMA ファイルの場合 )
A：著作権の保護が有効な WMA ファイルの可能性があります。Windows Media Player を利用して、本体にファイルを転送してください(P.100)。

## ■録音について

Q：録音形式はなんですか？
A：ボイス録音および FM 録音は、Windows 標準形式である WAVE 形式と MP3 形式で録音可能です。外部入力（ライン）録音は MP3 形式で録音可能です。(P.40)。

Q：録音方法はどのような形になりますか？
A：内蔵マイク（ボイス録音）、および外部入力ジャックを使ったダイレクトレコーディングケーブルでの入力（外部入力（ライン）録音）、FM ラジオ（FM ラジオ録音）の 3 種類の録音が可能です（P.40）。

Q：テレビなどの音も録音可能ですか？
A：イヤホンを接続できるテレビであれば、基本的には外部入力（ライン）録音が可能です。その際、ダイレクトレコーディングケーブルを接続する場所を間違えないように注意してください（P.43）。

Q：録音品質は設定できますか？
A：メニュー操作で録音品質（サンプリングレート / ビットレート）を選択することが可能です（P.67）。

Q：録音可能時間を教えてください。
A：録音品質により異なります。録音時間はビットレートによって計算可能です。

※計算式
録音可能時間（分）＝容量（空き容量）× 128 ÷ 録音ビットレート
128kbps が 1 分間に約 1MB 使用します。
※例
空容量 128MB：WAVE 形式：8kHz ：モノラルの場合
128（MB）× 128 ÷（8（kHz）× 4）＝ 512 分（約 8 時間）

空容量 128MB：MP3 形式：128kbps の場合
128（MB）× 128 ÷ 128（kbps）＝ 128 分（約 2 時間）

Q：録音レベルは調整できますか？
A：できません。外部入力（ライン）録音時には、再生側のオーディオ機器の音量に依存します。事前に試し録音をされることをお勧めします。

Q：タイマー録音機能はありますか？
A：ありません。

**■ラジオの受信について**

Q：受信可能な放送は FM 放送のみですか？
A：TV の 1 ～ 3ch についても音声の受信が可能です。AM 放送の受信はできません（P.47）。

**■接続について**

Q：専用ソフトは必要ですか？
A：Windows Me 以降の Windows OS であれば、パソコンと接続するだけで使用可能です。特に専用ソフトは必要ありません（P.87）。

Q：パソコンに接続しても認識しません。
A：パソコンと接続している際に、XS701 本体の画面に［Ready］と表示されるか確認してください。表示されない場合は、本体に異常がある可能性がありますので、弊社サポートセンターにご相談ください。
A：複数の USB ポートがある場合は、別のポートを使ってみてください。
A：USB ハブを使用している場合は、直接パソコンの USB ポートに挿し直してください。
A：認識までに時間がかかる場合があります。しばらく待ってみてください。

**■ディスプレイ表示関連**

Q：日本語表示ですか？
A：曲名、タグ情報について日本語表示が可能です（ただし、一部の特殊文字については表示できません）。

Q：ID3 タグ /WMA タグは表示されますか？
A：MP3 ID3 V1,V2 タグ、WMA タグのタイトル情報の表示（P.96）に対応します（ただし、一部の特殊文字については表示できません）。

**■ USB 延長ケーブルについて**

Q：付属の USB 延長ケーブル以外のケーブルを使用することができますか？
A：原則的には利用可能と思われますが、付属ケーブル以外を使用しての動作は保証できません。

**■メモリ関連**

Q：メモリは増設できますか？
A：SD カードスロットに SD カードを装着すると、より多くの曲の再生が楽しめるほか、オーディオファイル以外のデジタルカメラの画像データの保存など、大容量モバイルメモリとしても活用できます。本製品は、16MB ～ 512MB までの SD カードに対応しています（P.80）。

Q：音楽ファイル以外の保存はできますか？
A：接続したパソコンからは、一般的な USB 接続の HDD（ハードディスクドライブ）や USB メモリと同様に、USB マスストレージドライブ（大容量記録デバイス）として認識されますので、どのようなファイルでも容量が許す限り保存することができます（P.80）。なお、重要なデータはバックアップを取ることをお勧めします。

**■電池について**

Q：使用する電池のタイプはなんですか？
A：単４型アルカリ乾電池です（P.19）。

Q：電池は付属されていますか？
A：動作確認用の電池を１本付属しています。継続してご利用するには単４型アルカリ乾電池をご購入ください。

Q：連続再生時間はどのぐらいですか？
A：アルカリ乾電池で最大で約 11 時間となりますが、ご利用の状況によって異なります。

**■その他の機能について（本体関連）**

Q：自動電源オフはありますか？
A：1、2、5、10 分、オフ（連続）で、自動電源オフ時間を設定できます（P.66）。ただし、曲の再生中または録音中、FM ラジオの受信中は、一定時間ボタン操作を行わなくても、電源はオフになりません

Q：FM トランスミッター機能はついていますか？
A：ついていません。

**■その他の使用方法について（パソコン関連）**

Q：Windows Media Player で XS701 が表示されません。
A：Windows Media Player を起動する前に本体をパソコンに接続してください。Windows Media Player 上では、［リムーバブルディスク］と表示されます（P.92）。

Q：日本語版以外の Windows で使用できますか？
A：日本語版の Windows のみがサポート対象となります。
基本的には使用できると思われますが、保証は致しかねます。

Q：音楽ファイル以外も保存できますか？
A：接続したパソコンからは一般的な USB 接続の HDD（ハードディスクドライブ）や USB メモリと同様に、USB マスストレージドライブ（大容量記録デバイス）として認識されますので、どのようなファイルでも容量が許す限り保存する事ができます（P.92）。なお、重要なデータはバックアップを取る事をお勧めします。

Q：パソコンから取り外す方法を教えてください。
A：［ハードウェアの安全な取り外し］を実行して取り外してください（P.93）。

Q：メモリ容量を増やす事はできませんか？
A：SD カードを利用することはできますが、ボイス / 外部入力 / FM 録音した曲（オーディオファイル）は内蔵メモリに保存されるため、最大録音時間を増やすことはできません。録音時間を増やしたい場合は、録音品質を MP3 形式のビットレートの低い値に設定して録音してください。長時間録音が可能となり、録音する曲数を増やすことができます。ただし、その場合は音質が低くなります（P.67）。

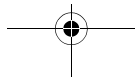
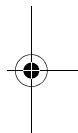
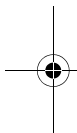
Q：本体で録音した音楽などをパソコンで再生できますか？
A：MP3 または WAV 形式で録音されていますので、そのままパソコンに保存して再生することが可能です。

**■エンコードについて（パソコン関連）**

Q：エンコードソフトは何を使用すればよいですか？（WMA）
A：Windows Media Player（バージョン 9 以降）を使用してください。

Q：エンコードソフトは何を使用すればよいですか？（MP3）
A：ひととおりのテストを行っておりますので、どのようなソフトウェアをご利用頂いても、基本的には問題はないと思われます。しかし、MP3 の規格から著しく外れたファイルを作成するようなエンコーダーを使用した場合、再生できない可能性があります。

Q：MP3、WMA 以外のファイルは再生できますか？
A：XS701 で再生できる音楽ファイルは MP3、WMA、WAV（本体で録音したもの）のみとなります。ATRAC3 形式などは再生する事ができません（SonicStage をご利用のお客様など）。

# 付録

# 主な仕様

| 仕様 | USBフラッシュメモリ型 デジタルオーディオプレーヤー | |
|---|---|---|
| 本体寸法 | 86(W)×33(H)×17(D) (mm) | |
| 重量 | 42g (乾電池を除く) | |
| ボディーカラー | ブラック / ブルー / ピンク / シルバー / レッド | |
| 内蔵メモリ | 512MB / 1GB / 2GB | |
| 出力デバイス | 3.5mmステレオミニジャック | |
| 入力デバイス | 3.5mmステレオミニジャック | |
| PC接続インターフェイ | USB2.0 / 1.1(Type A) | |
| S/N比 | 80dB | |
| アンテナ | ヘッドホン / イヤホンアンテナ | |
| 受信周波数<br>(FMチューナー) | 76.0MHz～108.0MHz | |
| 再生周波数 | 20Hz～15kHz | |
| リピート機能<br>(プレイモード) | 1曲リピート再生、全曲リピート再生、ランダム再生、ランダムリピート再生、<br>フォルダ再生、リピートフォルダー再生、ランダムフォルダー再生、区間リピート再生 | |
| 再生可能ファイル形式 | MP3 32kbps～320kbps | |
| | WMA 48kbps～192kbps | |
| | WAV (XS701本体で録音したファイルのみとなります) | |
| 録音可能ファイル形式 | MP3 | |
| | WAV | |
| 最大録音可能時間 | 外部入力 (ライン) 録音：<br>MP3形式 96Kbps | 約12時間 |
| | FM録音：<br>WAV形式 32Kbps (8000Hz) | 約16時間 |
| | ボイス録音：<br>WAV形式 32Kbps (8000Hz) | 約32時間 |
| 連続使用時間 | 約11時間 | |
| 電源 | 単4型アルカリ乾電池×1 | |
| 収録プログラム | 専用ファームウェアアップデートプログラム | |
| パソコンの必要スペック | PentiumⅡ以上の機能を持つCPU | |
| | CD-ROMドライブ | |
| | USBポート(USB2.0 HI-SPEED対応、USB1.1ポートに接続した場合には<br>Full-Speedモードでの接続となります) | |
| | メモリの空き容量128MB以上 | |
| | HDDの空き容量100MB以上 (オーディオデータを含まず) | |
| | インターネットに接続できる環境があること。<br>Internet Explorer 4.01SP2以降がインストールされていること。<br>Windows Media Player9.0以降 がインストールされていること。 | |
| 対応OS | Windows Me,2000,XP | |

- MP3(32kbps ～ 320kbps)、WMA(48kbps ～ 192kbps)、可変ビットレート(VBR)でエンコードされた物もこの範囲を逸脱した場合には再生が正常ではなくなる場合があります。WMA は DRM 対応ですが、購入された楽曲については全ての楽曲の転送を保証する物ではありません。
- WAV 再生は、本製品で録音(ボイス / FM 録音)した WAV ファイルのみの対応となります。
- 最大録音時間はメモリが空の状態で録音を行った場合となります。
- 連続使用時間は、ボリューム設定最大値、MP3（128kbps）ファイルを連続再生した場合で新品のアルカリ乾電池を利用した場合。電池の消耗状況、および利用環境により使用時間は変動します。
- いずれの OS も日本語版で、アップグレードインストールでない環境。また、Windows2000 環境の場合にはサービスパック（SP2 以降）がインストールされている事。上書きインストールした環境、OS が正常に動作していない環境は除きます。
- USB2.0 HI-SPEED 対応、USB1.1 ポートに接続した場合には Full-Speed モードでの接続となります。
- 別途オーディオデータを取り込む際などはそのための容量が必要です。
- 64kbps で録音した場合の CD 換算枚数
  512MB 約 16 枚 / 1GB 約 32 枚 / 2GB 約 64 枚
  ※ WindowsMediaPlayer で録音・転送した場合の枚数
- USB フラッシュメモリとして利用した場合のフロッピーディスク枚数換算
  512MB 約 360 枚 / 1GB 約 720 枚 / 2GB 約 1440 枚

**注意**

- 本製品の仕様はより良いものを提供するため予告なく変更になる場合があります。

# ハードウェア保証規定

本取扱説明書の注意書きおよび付属の説明書に従った使用状況で、本製品が保証期間内に故障した場合、下記の保証規定の範囲内で無料修理をさせていただきます。

以下は、本製品に関する保証規定を記載しております。ご使用前に、必ずお読みください。

**1** 保証対象

本保証書は本保証書記載の保証期間中(お買い上げ日当日より起算して1年間)、本商品の本体のみを保証対象とするものです。添付品類（イヤホンを含む）は消耗品となり、保証書記載のお買い上げ日当日より 14 日間の初期不良期間に限り、同様の保証を行わせていただきます。

**2** 保証の内容

1. 製品が取扱説明書記載の通常の使用方法により保証期間中に正常に動作しなくなった場合は、弊社にて検証を行った後、無料での修理または同等商品との交換を致します。修理のため交換された旧製品、旧部品等の返却は致しかねますので、ご了承ください。なお、データの消失等については、一切保証致しかねますので、あらかじめご了承ください。
2. 以下のような場合には、無料での修理、または交換は致しかねます。
   1) 弊社製品と判断出来ない場合
   2) 本保証書の呈示がない場合
   3) 本保証書の所定事項（お名前、ご住所、販売店欄等）の未記入、または字句を書き換えられた場合
   4) 本製品の自然消耗に起因する故障または損傷（本製品は製品の性質上、製品寿命がございます。）
   5) 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障または損傷
   6) お買い上げ後の輸送、移動時の落下などお取り扱いが不適当なため生じた故障または損傷（歩行中に製品を落とすなどして破損したものについても保証対象外になります。）
   7) ご使用時の不備あるいは接続している他の機器によって生じた故障または損傷
   8) 取扱説明書の記載内容に反するお取り扱いによって生じた故障または損傷
   9) 弊社以外で改造、調整、部品交換などをされた場合
   10) 消耗品の交換
   11) 本製品の外装、および内部部品が破損している場合
   12) その他、修理もしくは交換が認めがたい行為が発見された場合

**3** 保証対象外の有料修理または交換

1. 保証期間経過後、または上記 2 項 (2) の各項目のいずれかに該当する修理もしくは交換の申し出に対しては、弊社の判断で有料での修理、または同等商品との交換を致します。修理のため交換された旧製品、旧部品等の返却は致しかねますので、ご了承ください。なお、データの消失等については、一切保証致しかねますので、ご了承ください。

2. 次のような場合には、有料での修理、または交換は致しかねます。
この場合は修理、交換をお受けせず、送付された製品を返却させて頂く場合がございます。
   1) 弊社製品と判断出来ない場合
   2) 損傷が著しい場合
   3) 弊社以外で著しい改造、調整、部品交換などをされた場合
   4) その他交換が認めがたい行為が発見された場合

**4** 免責

本製品を使用した結果生じた、他のハードウェア等への影響については一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。

本保証書は上記の保証をなすものです。

**本保証規定は日本国内においてのみ有効です。**
**This warranty is valid only in Japan.**

# 保証品送付のご案内

保証書記載の本製品が正常動作しなくなった場合は、現象、環境等の詳細を取扱説明書記載の「お問い合わせ票（トラブルシート）」（P.122）の書式に従い記載いただいたうえ、保証書等とともに本製品を以下の住所までお送りください。

送付される際は、輸送時の破損を防ぐため厳重に梱包し、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便にてお送りください。

なお、弊社に直接お持込になられてもご対応出来かねますので必ず修理品はお送りくださいます様お願い致します。

送料については、発送時の費用はお客様負担、返送時の費用は無料修理および交換の場合は弊社負担、有料での修理、または交換の場合はお客様負担とさせていただきます。製品到着後、修理もしくは交換が完了しだい、返送させていただきます。

以上は本保証規定に基づく無料修理の場合であり、その他の場合には下記の弊社サポートセンターまでご連絡ください。

**送付していただくもの**

- 本製品
- 保証書
- 現象、環境等の詳細を記載したお問い合わせ表（トラブルシート）（P.122）

**注意**

- 修理の際、本体内蔵メモリに保存されていたファイルについては保証致しかねますのであらかじめご了承ください。

**送付先住所**

〒 135-0016
東京都江東区東陽 1-25-4　2F
シーグランドサポートセンター
TEL 03-5319-5711

※ご不明な点などは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

**本保証は日本国内においてのみ有効です。**
**This warranty is valid only in Japan.**

# サポートセンターのご案内

本製品の操作上の疑問や不明点もしくは動作の不具合などは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

弊社サポートセンターにお問い合わせいただく前に、まず本取扱説明書をよく読み、特に「使用上のヒントと トラブルシューティング」(P.97) をご参照ください。

インターネットをご利用できる方は、弊社ホームページで製品発売後に発見された不具合やその対策などの最新情報を公開しております。弊社サポートセンターにお問い合わせいただく前に、一度弊社ホームページをご覧ください。

**シーグランドサポートセンター**

電 話：0570-050250 /（携帯・PHS）03-5319-5711

FAX：0570-050350

E-mail：nsup@seagrand.co.jp

ホームページ：http://www.seagrand.co.jp/support/index.shtml

電話対応時間：月曜日〜金曜日（祝祭日を除く）10:00 〜 19:00 まで
土曜日（祝祭日を除く） 10:00 〜 17:00 まで

- E-mail や FAX でのお問い合わせの際には、ご連絡先や質問事項、ご利用機器の構成（OS やパソコンの機種名、メモリ、空き容量など）を「お問い合わせ票（トラブルシート）」(P.122) を参考にして、できるだけ詳しくご記載ください。
- トラブルの状況によっては、調査のためお時間を頂戴することがあります。あらかじめご了承ください。
- Windows の使い方やパソコン固有の問題に関しては、各製品のサポートセンターへお問い合わせください。
- 弊社で動作保証している機器以外の組み合わせでご利用になられた場合の不具合に関しては、弊社ではサポート致しかねます。
- お問い合わせいただいた順に回答させていただきますが、内容により前後する場合がございます。

# ユーザー登録のご案内

シーグランドは、ユーザー登録されたお客様に対して、サポートやアップデートのご案内など、各種サービスを実施させていただきます。同梱されている「ユーザー登録はがき」に必要事項を記入の上、ご登録手続きをしてください。

なお、弊社ホームページからもユーザー登録ができます。

http://www.seagrand.co.jp/regist/index.shtml

# シーグランドのプライバシーに関するポリシー

プライバシーは個人の重要な権利であり、シーグランド株式会社はお客様の個人情報の保護に努めています。シーグランド株式会社のプライバシー・ポリシーは以下に記載のとおりです。

**●個人情報の収集について**

シーグランド株式会社（以下、弊社）は、製品に付属しているユーザー登録はがきや弊社ホームページからのユーザー登録によって、お客様の個人情報の提供を求めることがあります。また、弊社サポートセンターへのお問い合わせの際にお名前や電話番号、E-mail アドレスなどをお尋ねする場合があります。弊社はまた、お客様が弊社製品の販売会社に提供された個人情報を、お客様の事前の同意のもとにその会社から収集することがあります。

お客様が個人情報を弊社に提供されるかどうかは、完全にお客様個人の自由です。お客様ご自身の意思により、個人情報が弊社に提供された場合、それらの情報は弊社の保護されたデータベースに収集し、保管されます。

個人情報保護に関するポリシーは P.120 をご覧ください。

**●その他の重要な事項**

弊社は未成年者に対し、故意に個人情報の提供を求めること、収集することはありません。

公的機関から要請があった場合や公共の利益になると弊社が判断した場合、弊社はそれらの機関に対し、お客様の個人情報を開示することがあります。

弊社のホームページがリンクする弊社以外の第三者のホームページにおけるプライバシー・ポリシーに関して、弊社は一切の責任を負いません。お客様自身でそれらのホームページのプライバシー・ポリシーを確認されることをお勧めします。

**●お問い合わせ**

弊社のプライバシー・ポリシーについて、ご質問やご意見などございましたら、弊社サポートセンター（P.117）までお問い合わせください。

# シーグランドの個人情報保護に関するポリシー

**●情報保護方針**

シーグランド株式会社（以下、弊社）では以下の通り「情報保護方針」を定め、個人情報の適切な保護に努めます。

- 個人情報保護の重要性について、従業員に対する教育活動を実施するほか、個人情報保護の管理責任者を置き、適切な個人情報保護の実施、維持、継続的改善に努めます。
- 情報への不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏洩などを未然に防ぐよう努めます。
- 個人情報の収集、利用、提供を行う場合には、業務実態に応じた個人情報の適切な管理に努めます。
- 情報に関する法令、およびその他規範の遵守に努めます。

**●個人情報の利用目的について**

ご登録いただいた個人情報は、下記の目的で利用させていただく場合があります。

- サポートサービスをご利用いただく場合のご本人様の確認
- 製品をご利用いただくにあたって、弊社が必要と判断した場合のメールなどでのご連絡
- 社内統計資料作成（新製品開発での製品別利用者の年齢構成、性別構成等）
- アップグレード販売、優待販売等へのご案内

**●第三者への提供について**

上記目的で個人情報を利用するために必要な範囲内で、ご提供いただいたお客様の個人情報を第三者に提供する場合があります。例えば、アップグレード販売、優待販売等での円滑な発送作業を行うためにビジネスパートナーである発送・運送業者等に情報を提供する場合などです。

上記の場合以外では、事前にお客様のご同意をいただかない限り、弊社はお客様の個人情報を第三者には提供いたしません。お客様が弊社製品の販売会社に個人情報を提供された場合、その販売会社からお客様に、ダイレクト・メールや E-mail が届く場合があります。そのような情報提供を希望されない場合は、お客様が直接その販売会社に情報提供の停止を表明する必要があります。弊社は、業務委託先に対しても個人情報を保護するよう義務付けています。

但し、人の生命、身体又は財産を保護するために緊急を要する場合、司法機関、警察等の公共機関による法令に基づく要請に協力する必要がある場合、その他法令に基づく場合には、お客様の事前のご同意を得ずに第三者に提供することがあります。

**●個人情報保護方針が適用される範囲**

弊社は弊社が保有する個人情報において、個人情報保護方針を遵守し、個人情報を適切に保護します。

弊社は、弊社のホームページにリンクされている他 ( 事業者または個人 ) のホームページにおける個人情報等の保護について責任を負うものではありません。

**●個人情報の運用について**

**情報の開示、変更および利用停止について**

弊社サポートセンターへご連絡をお願いします。

お名前、製品シリアルナンバー、ご登録のお電話番号を確認させていただき、ご登録の内容と一致した場合のみ、弊社よりご登録のお電話番号へ折り返しご連絡し、合理的な範囲で対応をおこないます。

確認の内容が一致しない場合は情報の開示、変更などの依頼をお断りする場合があります。

なお、弊社より開示する内容は、ユーザー登録でご登録いただいた内容のみですのであらかじめご了承ください。

**個人情報についてのお問い合せ**

個人情報に関するご質問は、弊社サポートセンター（P.117）までお問い合わせください。

# お問い合わせ票（トラブルシート）

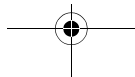
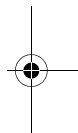
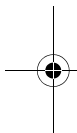
以下の用紙に必要事項をご記入のうえ、下記までFAXにてご送信してください。

シーグランドサポートセンター
FAX：ナビダイヤル 0570-050350

| 受付番号 |
|---|

受付番号は弊社使用欄です

| |
|---|
| お名前（よみがな）： |
| 製品名： |
| ご購入店：　　　　　　ご購入日：　　年　　月　　日 |
| FAX番号：<br>※本シートをご利用になりFAXにてお問い合わせいただく際には、必ず返信先FAX番号をご記載ください。 |
| ■お問い合わせの内容<br>お問い合わせの際は、より詳しい情報をご提供くださいますようお願いいたします。<br>処理の手順やエラーメッセージなどをより具体的にご記入ください。<br>また、パソコンとの接続に関するトラブルの場合、以下の項目も併せてご連絡ください。<br>●パソコン名（メーカー）●OS(Windows Me/2000/XP)●ハードディスク容量●メモリ容量<br>●その他、パソコンご利用環境 |

※コピーしてお使いください

# 索引

## 英数字

CD から録音 85
CH トウロク 74
DRM（デジタル著作権管理機能） 95
FM チューナー 47
FM ラジオ 47
FM ラジオ画面 22, 56
FM ラジオボタン 17
FM ラジオモード 56
FM 録音 52
FM ロクオンセッテイ 70
ID3 ゲンゴ 78
ID3 タグ 96
MP3 95
SD カード 96
SD カードスロット 18
USB 延長ケーブル 11
USB コネクタ 17
USB 接続中 88
USB ポート 87
USB マスストレージクラス 96
WAV（Windows Wave） 95
Windows Media Player 84, 96
WMA 95

## あ

頭出し再生 27

## い

イコライザ 61
イコライザ表示 20
一時停止 28
一時停止表示 20
一時停止ボタン 16
イヤホンアンテナ方式 47
イヤホンジャック 18

## お

オーディオファイル 26, 95
オートオフ 66
オートスキャン 49
音楽再生モード 20, 56
音楽の取り込み 86
音楽の録音 86
音量ボタン 17
音量レベル表示 20

## か

外部入力ジャック 18
外部入力モード 57
外部入力録音 43

## き

曲数表示 21
曲の削除 36
曲番号表示 21

## く

区間リピート再生 30
区間リピート表示 21
区間リピートボタン 17

## け

言語 77, 78

## こ

コントラスト 65

## さ

再生 26
再生表示 20
再生ボタン 16
削除 36
サンプリングレート 67

## し


システム ........79
自動選局 ........49
自動電源オフ機能 ........66
受信周波数表示 ........22
手動チャンネル登録 ........73
シンクロ ........71
シンクロ録音 ........71


## す


数秒間押したまま ........16, 104
スクリーンセーバー ........76
進むボタン ........17
スピーカーボタン ........16


## せ


セッテイ ........59
セッテイ～ボイスロクオン ........68
セッテイ～ラインロクオン ........69
専用フェームウェア
　アップデートプログラム ........82


## た


タイムカウンター ........21
ダイレクトレコーディングケーブル 11
タスクトレイ ........88


## ち


チャンネル ........51
チャンネル番号表示 ........22


## て


停止 ........28
停止表示 ........20
ディスプレイ ........16, 75
デバイスへ同期済み ........90
電源ボタン ........16
電源を入れる ........24
電源を切る ........25
転送 ........90
電池レベル表示 ........21, 24


## と


同期タブ ........89
同期の開始 ........90
取り込みタブ ........85


## な


内蔵スピーカー ........18


## は


ハードウェアデバイスの停止 ........94
ハードウェアの安全な取り外し ........93
バッテリカバー ........18
バッテリー残量低下 ........42, 46, 53
早送り ........27
早送りボタン ........17


## ひ


ビットレート ........67


## ふ


ファームウェア ........79
ファームウェアの更新 ........82
ファイル形式 ........95
ファイル名表示 ........21
フォルダー ........33, 64, 92
プレイモード ........63


## ほ


ボイスメモモード ........56
ボイス録音 ........41

## ま

マイク ......18
前の曲を頭出し再生......27
巻き戻し ......27
巻戻しボタン......17

## み

短く押す ......16, 104

## め

メイン画面 ......20, 56
メニュー ......58
メニュー画面......57
メニューゲンゴ......77
メニューボタン......17
メニューモード......57
メモリがいっぱいです ...... 42, 46, 53

## も

モード......56
戻るボタン ......17

## ら

ライブラリに録音済み......86
ライン録音 ......43

## れ

レジューム機能......28

## ろ

録音時間 ......67
録音設定 ......67
録音品質 ......67
録音ボタン ......16
ロック機能 ......32, 54
ロックマーク表示......21

## 記号

(▶II) ......16
Ⓡ ......16
▶▶I......17
I◀◀......17
(M) ......17
(ヘッドホン) ......18

**XS701 取扱説明書**

2006 年 7 月　第 1 版発行

発売元：シーグランド株式会社

Printed in China
乱丁落本はお取り替えいたします。